

2022.3.18 理事会 議決

2022.3.25 評議員会議決

2022(令和 4)年度

事業計画書

社会福祉法人 恵仁福祉協会

高齢者総合福祉施設 アザレアンさなだ

目次

1. 法人の概要	1
2. 沿 革	3
3. 運営理念	8
4. スローガン	9
5. 行動規範	10
I 2022年 事業計画骨子	11
第8期介護保険事業計画	12
高齢者施設における新型コロナウイルス感染症発生に備えた対応等について	12
その他	13
法人の組織図	14
委員会の趣旨	15
II 事業経営	
○総務部の経営計画	16
事務課の経営計画	17
会計課の経営計画	18
・人事・労務・研修・介護保険事務・庶務	19
・車両・送迎・営繕	20
・経理・財務	21
○施設事業部の経営計画	22
施設事業課の経営計画	23
・特別養護老人ホームアザレアンさなだ	24
・短期入所(アザレアンさなだ)	25
・大畑サテライト	26
・横尾サテライト	27
・栄養管理	28
認知症対応型事業課	29
・萩・曲尾グループホーム	30
・下原グループホーム	31
・真田グループホーム	32
・菅平グループホーム	33
・菅平グループホーム共用型	34
○在宅事業部の経営計画	35
通所介護事業課の経営計画	36
・萩の家	37
・デイサービスセンターアザレアン	38
・訪問入浴サービスアザレアン	39

・総合事業アザレアン	40
訪問介護事業課の経営計画	41
・ホームヘルプステーションアザレアン	42
・24 時間対応型ホームヘルプステーションアザレアン	43
・居宅介護・重度訪問介護	44
・サービス付き高齢者向け住宅アザレアン	45
小規模多機能型事業課	46
・大畑の家	47
・新田の家	48
相談支援事業課の経営計画	49
・居宅介護支援センターアザレアン	50
・各事業所所属の介護支援専門員	51
○医療連携部、医療事業課の経営計画	52
・訪問看護ステーション真田	53
・各事業所所属の看護職員 PT・OT・DH・管理栄養士	54
○ナーサリーさなだ(企業所内保育所)の経営計画	55
・ナーサリーさなだ	56
Ⅲ 職員研修会・職員全体会議・4 法人合同研修	57
○10 年後のアザレアンを考える会の経営計画	58
○法人創立 30 周年記念事業実行委員会の経営計画	59
○「えぼし会」の計画	60

1. 法人の概要

1. 法人名称 社会福祉法人 恵仁福祉協会
2. 法人代表者 理事長 小 林 彰
3. 法人本部所在地 長野県上田市真田町長 7 1 4 1 - 1
4. 設立年月日 平成4年3月31日（設立登記 平成4年4月13日）
5. 社会福祉事業

●第1種社会福祉事業

- ①特別養護老人ホームの経営（アザレアンさなだ、サテライト型居住施設、横尾サテライト）

●第2種社会福祉事業

- ①老人短期入所事業の経営（アザレアンさなだ、サテライト型居住施設、横尾サテライト）
- ②介護予防老人短期入所事業の経営（アザレアンさなだ、サテライト型居住施設）
- ③老人デイサービス事業の経営（デイサービスセンターアザレアン）
- ④介護予防デイサービス事業の経営（デイサービスセンターアザレアン）
- ⑤認知症対応型共同生活援助事業の経営（萩・曲尾グループホーム、下原グループホーム、真田グループホーム、菅平グループホーム）
- ⑥介護予防認知症対応型共同生活援助事業の経営（萩・曲尾グループホーム、下原グループホーム、真田グループホーム、菅平グループホーム）
- ⑦老人居宅介護等事業の経営（ホームヘルパーステーションアザレアン、24時間型ホームヘルパーステーションアザレアン）
- ⑧介護予防老人居宅等事業の経営（ホームヘルパーステーションアザレアン、24時間型ホームヘルパーステーションアザレアン）
- ⑨基準該当生活介護障害福祉サービス事業の経営（アザレアンさなだ(短期入所)、デイサービスセンターアザレアン）
- ⑩小規模多機能型居宅介護事業の経営（大畑の家、新田の家）
- ⑪介護予防小規模多機能型居宅介護事業の経営（大畑の家、新田の家）
- ⑫認知症対応型通所介護事業の経営（萩の家・菅平グループホーム共用型）
- ⑬介護予防認知症対応型通所介護事業の経営（萩の家・菅平グループホーム共用型）
- ⑭日常生活支援総合事業の経営（日常生活支援総合事業アザレアン）

●公益事業

- ①訪問看護ステーション真田の経営
- ②介護予防訪問看護ステーション真田の経営
- ③居宅介護支援事業（居宅介護支援センターアザレアン）
- ④訪問入浴介護事業（訪問入浴サービスアザレアン）
- ⑤介護予防訪問入浴介護事業（訪問入浴サービスアザレアン）
- ⑥配食サービス事業
- ⑦宅老所スポットステイ（宿泊）事業
- ⑧訪問介護員養成研修事業
- ⑨地方自治体からの指定管理業務事業

⑩有償日常生活支援サービス事業

⑪サービス付き高齢者向け住宅の経営事業

⑫企業内保育所の経営事業

6. 役員

●理事 7名 監事 2名

●評議員 9名

7. 基本財産

●建物

アザレアンさなだ	2, 794. 89 m ²
厨房棟	165. 70 m ²
アゼリア	381. 14 m ²
菅平の家	159. 56 m ²
菅平グループホーム	202. 28 m ²
萩・曲尾グループホーム、萩の家	335. 10 m ²
下原グループホーム	402. 48 m ²
真田グループホーム	199. 02 m ²
新田の家	182. 59 m ²
サテライト型居住施設 大畑の家	698. 29 m ²
サービス付き高齢者向け住宅アザレアン	680. 40 m ²

●土地

アザレアンさなだ敷地（7筆）	14, 327. 88 m ²
「菅平の家」敷地（4筆）	3, 953. 23 m ²
サテライト型居住施設 大畑の家	2, 525. 21 m ²
「萩の家、萩・曲尾グループホーム」敷地 （2筆）	908. 53 m ²

8. 運用財産

●土地

「菅平の家」敷地（8筆）	4, 333. 42 m ²
--------------	---------------------------

●建物

その他	470. 61 m ²
-----	------------------------

2. 沿革（年度）

- 1991年（平成3年） 「社会福祉法人恵仁福祉協会」法人設立認可申請、（財）日本船舶振興会補助金申請「特別養護老人ホームの建築」（9月）
- 1992年（平成4年） 法人設立、登記（3月）
特別養護老人ホームアザレアンさなだ等の建築着工（5月）
特別養護老人ホーム認可
- 1993年（平成5年） 特別養護老人ホームアザレアンさなだ開設（4月）
・ 特別養護老人ホームアザレアンさなだ 50床
・ 真田町デイサービスセンターB型15名・E型9名受託
・ 配食サービス開始（デイサービスB型選択事業）
・ 在宅介護支援センター運営事業（真田町直営）一部受託
ふれあい福祉健康ゾーン合同竣工式（5月）
- 1994年（平成6年） 訪問入浴サービス真田町単独事業受託
- 1995年（平成7年） 真田町デイサービスセンター受託事業の変更
・ B型 → A型（一般型から重度型）
・ 訪問入浴事業の開始（真田町単独事業から国庫補助事業へ）
・ 利用人員加算受託（15人 → 21人へ）
・ 菅平地区サテライトデイサービス事業開始（法人独自事業）
- 1996年（平成8年） 真田町デイサービスセンター受託事業の変更
・ デイサービス早朝、夕方の利用延長サービスを開始
・ 365日ホリデイサービス事業の受託
長野県痴呆性老人先駆的処遇モデル事業受託（長野県単独事業）
・ 疑似家庭療法（お座敷）
・ 演劇療法
・ 徘徊老人への外出支援
（財）日本船舶振興会補助金申請「ショートステイの増築」
- 1997年（平成9年） 真田町デイサービスセンター受託事業
・ デイサービスセンターD型の受託（サテライトデイサービス長地区（長生涯学習館）本原地区（本原生涯学習館）傍陽（岡保公民館）菅平（菅平高原国際リゾートセンター））
・ キャラバンデイサービス（法人独自事業）
・ 趣味の集い（法人独自事業）
小規模市町村24時間ホームヘルプ事業の受託（県単独事業）
個室ユニット型ショートステイ棟増築（2月） 10名
長野県痴呆性老人先駆的処遇モデル事業
・ 逆デイサービス「大庭の家」
・ 疑似家庭療法（お座敷）
・ 演劇療法
・ 徘徊老人への外出支援
訪問看護ステーション真田開設（3月）

1998年（平成10年）	曲尾グループホーム委託事業受託（10月）	6名
1999年（平成11年）	中原グループホーム委託事業受託（3月）	5名
	日本財団補助金交付申請「地域交流施設の増築工事」	
2000年（平成12年）	介護保険法施行（4月）	
	指定介護老人福祉施設アザレアンさなだ	50床
	指定短期入所生活介護事業アザレアンさなだ	10床
	指定通所介護事業デイサービスセンターアザレアン	25名
	・サテライトデイサービス（菅平高原国際リゾートセンター西部コミュニティーセンター 9名）	
	・痴呆専用併設型通所介護事業	10名
	指定訪問介護事業ホームヘルパーステーションアザレアン	
	指定訪問看護ステーション真田	
	指定居宅介護支援事業 居宅介護支援センターアザレアン	
	指定痴呆性高齢者共同生活介護事業	
	・曲尾グループホーム	6名
	・中原グループホーム	5名
	指定訪問入浴介護事業 訪問入浴サービスアザレアン	
	地域交流施設アゼリア竣工（2月）	
	・カフェ＆ギャラリーSaana（エイブルアートギャラリー）	
	・地域交流スペース	
	・在宅介護支援センター	
	介護予防生きがい支援事業受託	
	・配食サービス「つつじ弁当」	
	真田町独居用高齢者集合住宅管理事業受託	
	小型自動車振興会車両整備補助申請・交付	
	日本財団訪問入浴車助成申請・交付	
2001年（平成13年）	指定痴呆性老人共同生活介護事業（真田グループホーム	5名）
	指定通所介護事業定員の変更（25名 → 35名）	
	アザレアン移送サービス（（株）アート梱包運輸協力）開始	
2002年（平成14年）	中原グループホーム定員の変更（5名 → 6名）	
	宅幼老所（単独型通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業）の開設	
	・「戸沢の家」（11月）	10名
	・「大庭の家」（11月）	10名
	日本財団訪問入浴車助成申請・交付	
2003年（平成15年）	宅幼老所定員の変更（戸沢の家、大庭の家	10名→12名）
	痴呆併設型通所介護事業休止	
	宅幼老所の開設	
	・「荒井の家」（3月）	12名
	通所介護事業所事業変更	
	・町原公民館（サテライト）	9名の追加

- 2004年（平成16年） 宅幼老所の開設
- ・「南天神の家」（11月） 12名
- 2005年（平成17年） 宅幼老所の開設
- ・「菅平の家」（4月） 12名
 - サテライト型拠点施設「大畑サテライト」の開設（12月）
 - ・特別養護老人ホーム本体より8床移転（10床）
 - ・指定短期入所生活介護 4床 （2床）
- 宅幼老所の開設
- ・「大畑の家」（12月） 12名
- 宅幼老所の開設
- ・「山口の家」（2月） 12名
- 2006年（平成18年） 地域密着型サービスへの移行
- ・認知症対応型共同生活介護（曲尾GH、中原GH、真田GH）
 - ・地域密着型介護老人福祉施設「大畑サテライト」
- 2007年（平成19年） 小規模多機能型居宅介護の開設
- ・「大畑の家」（5月）登録18名・通い9名・泊まり3名
- 地域福祉空間整備交付金を活用して「菅平グループホーム」の整備を開始（9月竣工 平成20年5月開設予定 定員6名）
- 2008年（平成20年） 小規模多機能型居宅介護の開設
- ・「国分の家」（7月）登録18名・通い9名・泊まり3名
 - ・「南天神の家」（2月）登録18名・通い9名・泊まり3名
- 2009年（平成21年） 日本生命財団高齢社会先駆的事業助成（10月～）
- 2010年（平成22年） 「地域包括ケアモデル事業」上田市より受託（10月～）
- 2011年（平成23年） 地域包括ケアモデル事業「憩いの郷」（上原自治会）開設（8月）
- 居宅介護支援センターえん 上田市常田に移転（9月）
- 夜間対応型訪問介護「24時間型ホームヘルパーステーションアザレアン」の開設（11月）
- 2012年（平成24年） 建築基準法・消防法改正に伴うグループホーム新築移転（5月）
- ・中原グループホーム(中原自治会)から
下原グループホーム(下原自治会)へ
 - ・真田グループホーム(真田自治会)から
真田グループホーム(真田自治会)へ
 - ・曲尾グループホーム(曲尾自治会)から
萩・曲尾グループホーム(萩自治会)へ
- 宅幼老所の廃止・認知症対応型通所介護の開設（6月）
- ・大庭の家 廃止（サロン大庭へ移行）
 - ・萩の家 開設（萩・曲尾グループホーム併設）
- 地域支え合い体制づくり連携事業
- ・「サロン大庭」（大庭自治会）開設（7月）
- アザレアンさなだ浴室の大規模改修（7月）

- 2013年（平成25年） 「デイサービスセンターアザレアン」と「訪問入浴サービスアザレアン」を統合 管理者兼務（12月）
大畑の家・サテライト型居住施設にスプリンクラー設備を設置（1月）[長野県・上田市 介護基盤緊急整備特別対策事業]
- 2014年（平成26年） 地域密着型特養「横尾サテライト」開設（4月）
小規模多機能型居宅介護の開設
・「新田の家」（5月）登録18名・通い12名・泊まり4名（南天神の家サテライト）
認知症対応型共同生活介護の増築
・「下原グループホーム」（5月）定員6名（既存「下原グループホーム」定員6名×2ユニット）
[上田市介護基盤緊急整備特別対策事業]
- 2015年（平成27年） 宅幼老所「山口の家」の廃止（3月）
有償日常生活支援サービス事業の開始（11月）
厨房棟新築（12月）
- 2016年（平成28年） 宅幼老所「菅平の家」の休止（3月）
・サービス付き高齢者向け住宅アザレアンの開設（10月）
ホームヘルプステーションアザレアン事務所の移転（10月）
・定期巡回・随時対応型訪問介護看護の開設（11月）
宅幼老所「戸沢の家」の休止（12月）
- 2017年（平成29年） 南天神の家・国分の家にスプリンクラー設備を設置（2月）
[地域介護・福祉空間整備等施設整備補助金交付（先進的事業支援特例）事業]
日常生活支援総合事業アザレアンの開設（9月）
- 2018年（平成30年） 地域交流施設アゼリア改修・1階多目的ホール（9月）
地域交流施設アゼリア改修・1階喫茶Saana（9月）
地域交流施設アゼリア改修・2階企業所内保育所（11月）
宅幼老所「荒井の家」廃止（12月）
宅幼老所「戸沢の家」再開（11月）
- 2019年（平成31年・令和元年）
小規模多機能型居宅介護「国分の家」休止（9月）
小規模多機能型居宅介護「国分の家」廃止（3月）
- 2020年（令和2年） 宅幼老所「戸沢の家」休止（7月）
緊急時発電設備設置・改修工事（アザレアンさなだ）（8月）
[長野県地域介護・福祉空間整備等施設整備事業]
自家発電機設置（真田、下原GH・南天神の家）（11月）
[上田市地域介護・福祉空間整備等施設整備事業]
長野県新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金支給事業（12月）
- 2021年（令和3年） 新型コロナウイルス感染拡大防止対策補助事業（介護分）（3月）

カフェアンドギャラリーSaan の営業終了 (4 月)
居宅介護支援センターえん 休止 (4 月)
サテライト型拠点施設「大畑サテライト」短期入所 2 床閉鎖
長期入所 10 床から 12 床へ(4 月)
介護サービス事業所・施設における感染防止対策支援事業(1 月)
長野県地域医療介護総合確保基金事業(介護従事者確保分)ICT 導入
支援事業 (7 月)
長野県地域医療介護総合確保基金事業(介護施設整備分) (7 月)
介護サービス事業所・施設における感染防止対策支援事業(1 月)
萩の家、萩曲尾グループホーム敷地(2 筆)取得 (2 月)
宅幼老所「戸沢の家」廃止(2 月)
居宅介護支援センターえん 廃止 (3 月)
小規模多機能型居宅介護「南天神の家」廃止 (3 月)
日常生活支援総合事業アザレアン移転 (4 月)

2022 年 (令和 4 年)

3. 運営理念 「人として 幸せに 安心して 生きる日々を 大切に」

理念とは、理想的な介護、客観的な知識、事実に裏打ちされた理論、そして、恵仁福祉協会のすべての役職員の信念（思い）が統合されたものです。

そのため、理念は、具体的な実践ができる理論的な裏づけがなければ意味を持たちません。さらに、仕事に従事する者は、これらの理念を熟知し、日常の業務活動に反映させることが大切です。理念を前提に、事業所や職場に適応し成長し改善する姿勢が重要です。

恵仁福祉協会の理念は、平成11年度に「アザレアンさなだの本質」を繰り返し展開した結果、生まれた13の要件をまとめたものです。その要件とは、

(1)生活の継続

住み慣れた地域やバックグラウンドにこだわり、住み替えやサービス利用でその人らしさが失われないようにします

(2)サービスタイミングと量の確保

適時、適量のサービス提供で、生活上のリスクを最小限にとどめる予防を進めます

(3)人づくり

理念を知り、その実現のために実践する人づくりを行います

(4)地域の信頼

地域の期待に応え、地域の信頼を得るようにします

(5)個別性

一人の人として認める「まなざし」を持ちます

(6)見守り

手をかけず、目を離さず常に見守る姿勢、態度を意識します

(7)仲間

地域で暮らす仲間、活動を共にする仲間、同じ想いを持つ仲間を大切にします

(8)自由の選択

自由は放任ではない事を理解します

(9)権利の尊重

人として尊重されるべき「権利」、その人が本来持つ「力」の存在を引き出す援助を心がけます

(10)サービスの選択

課題が明確にされ、何をどうしたいのかという葛藤に焦点を当て、「選択」に意味を持つ事を理解します

(11)サービスの質と量の確保

生活支援は包括的なサービス提供が前提です。そのためにはサービスの種類、質、量の確保は絶対条件です。したがって、「この程度でいい」は「その程度の暮らし」でしかないということを意識します

(12)本人の意思の尊重

「こうありたい」という意志がどのような場面、状態にあっても、あることを信じることから始まります

(13)人間理解

生活支援はその人を「知る」ことから始まります

4. スローガン

1. 「「理念」と「組織」と「人づくり」を一体に」

恵仁福祉協会が掲げる理念は、高齢者支援の本質を述べるものであり、我々が悩み、困惑したときに立ち返ることの出来るものです。その理念を具現化することが、組織の役割・使命となりますが、そのため「組織」をどのような体制に組み立てて運営していくのかということが重要になります。そして「組織は人なり」と言われるように、「人づくり」が組織力の要になると考えます。

つまり、理念を共有し、理念の具現化に向けたモチベーションの高い人をどれだけ育成するかが組織の生命線になります。

法人では、職員一人一人のやるべき事が、事業計画、職務分掌、職能要件により示され、法人から職員への期待と、目標に向けた達成度を確認しながら個々が成長する仕組みがあります。これは、職員一人一人の作業が、より質の高い恵仁福祉協会を作りあげていくためには必要であることを意味します。

2. 「ご利用者様本位で解りやすく、利用しやすく、迅速に、親切丁寧に」

高齢者福祉の課題は介護に特化されるものではなく、様々なニーズによって成り立っています。

社会福祉によって救済される必要のある事案と、自立支援のための社会サービスの利用が未だに混同し、「福祉サービス」として曖昧に取り扱われています。そこで、福祉サービス提供者として「説明責任」をもって提供し、曖昧な中でサービス提供が行われないように注意を図る必要があります。

特に社会福祉によって救済される必要のある事案には、市町村からの援助が適切に受けられる様に、当事者の立場に立って情報提供や制度活用、権利擁護や代弁等を行い、生活支援、介護支援、医療支援、経済支援等を包括的に提供していきたいと考えます。

3. 「NO」と言わず、まず「YES」から始める

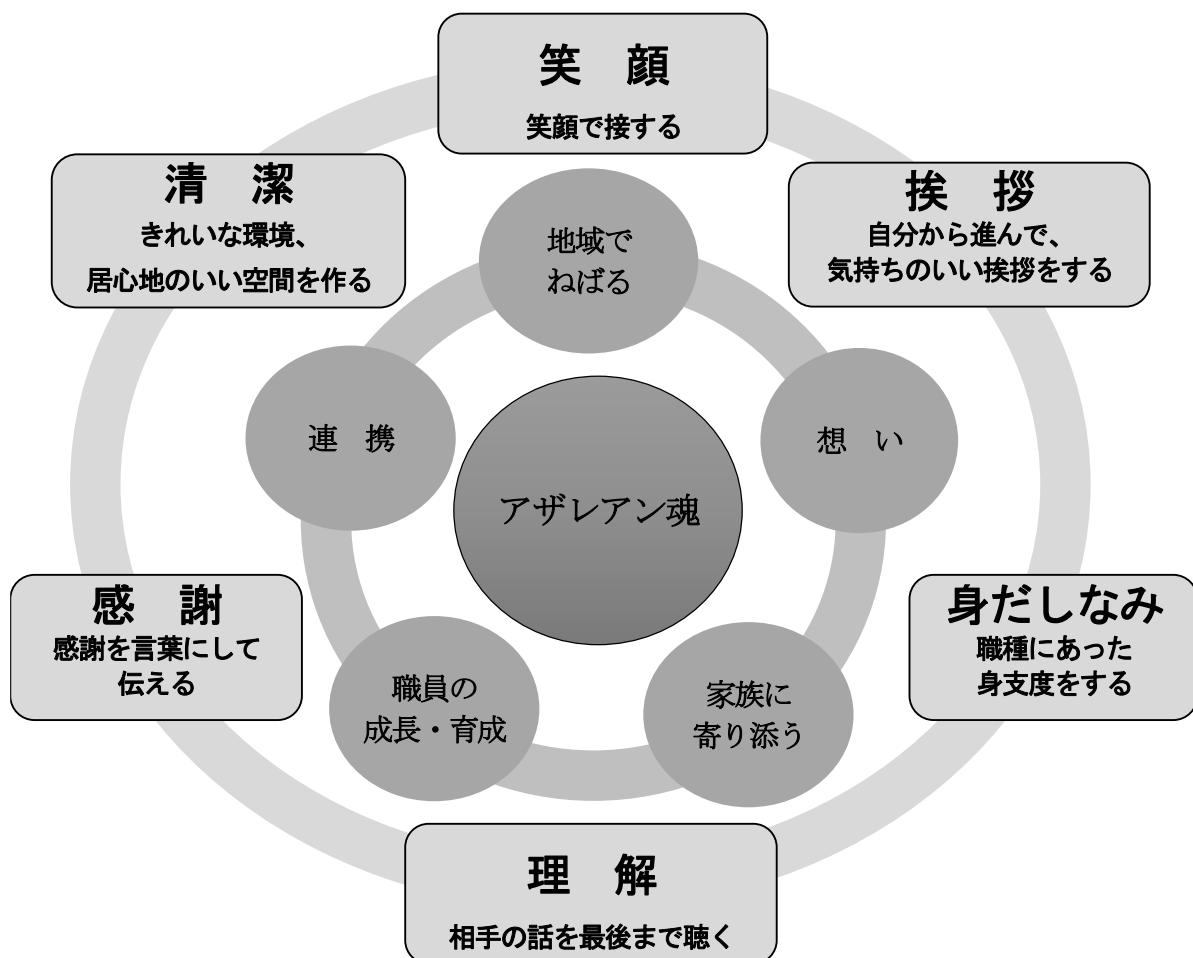
社会福祉法人の使命は、我々の都合でサービスを創り、提供することではなく、ご利用者様の気付くことができない「あるべき姿」の提案から出発していかなければなりません。

もし、法人の方針や体力が未成熟で、個々の要求に対して「NO」と言えば、法人、施設、ご利用者様、地域社会の成長も望めません。

「していないこと」ことを「出来ていない」には決してしないこと、まずは「YES」からはじめること、考え工夫することを地域への約束とします。

- ・ 笑 顔 笑顔で接する
- ・ 挨拶 自分から進んで、気持ちのいい挨拶をする
- ・ 身だしなみ 職種にあった身支度をする
- ・ 理 解 相手の話を最後まで聴く
- ・ 感 謝 感謝を言葉にして伝える
- ・ 清 潔 綺麗な環境、居心地のいい空間を作る

《アザレアン魂を体現する6つの実践》



1. 30周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

30周年を迎えるにあたり今年1年の事業目的を「心をつつにともに支え合う未来へ」としました。今まで法人のために支えてくださった方々に感謝するとともに、人間関係の基本となる「受容・共感・尊重」を大切に、未来に向けて法人をより成長させる1年にしていきます。

今年度は2021年の骨子であった組織の一体化、経営の安定化、感染症・災害への対応力強化を基礎とし、2022年も引き続き理念・スローガン、行動規範を大切にしながら、職員の相互理解を深め、今以上にやりがいや生きがいを感じ、誇りの持てる組織になるように努力していきます

2. ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

30周年事業の目標の1つでもある「多様性を認め合い、ともに笑顔で繋がろう」を大切に、ご利用者が笑顔でいられる時間の提供を計画実行していきます。昨年度まで新型コロナウイルス感染症の影響があり、地域やご家族様と繋がることが難しかったため今年度は感染状況をみながら、皆が笑顔で楽しめる活動や行事等の計画を立てていきます。

3. 地域の応援団を強化していきます

30周年事業の目標の1つに「地域の一員として、安心して暮らせる街（まち）づくりに貢献しよう」があります。万が一地域に、感染症や災害が発生した場合であっても、ご利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築していきます。また、災害時は地域と連携した対応の強化が不可欠であることから、避難訓練等の実施に当たっては地域住民の参加が得られるように連携に努めます。

また、より信頼される法人を目指して、地域行事には可能な限り参加し、地域の皆様に対して、ホームページやフェイスブック、真田生き生きふるさと通信を通じて法人の活動を発信していき、顔の見える関係づくりに取り組んでいきます。

現在法人の行っている事業の中には、地域の皆様の生活を支えることに不可欠なサービスが多くあります。365日3食の配食サービスは真田地域を主としていますが地域が広く配達人員も限られています。しかしながら地域の要望がある限りお応えできるよう努めていきます。また24時間型の訪問介護、訪問看護、上小地区に2か所しかない訪問入浴サービス等の継続に引き続き努力してまいります。地域の皆様の安心・安全のために、「地域の頼れる存在」であり続けます。

○第8期介護保険事業計画（2021年度～2023年度3ヵ年計画）をふまえて

第7期介護保険事業計画から、保険者に介護予防等の「取組と目標」の記載が必須となりました。同様に都道府県が作成する介護保険事業支援計画にも、これを支援する「取組と目標」の記載が必須となりました。さらにこれら「取組と目標」は、毎年度の実績を踏まえて自己評価し、その結果を都道府県や厚生労働省に報告するとともに、各自治体において公表することが求められます。

第8期介護保険事業計画では、令和3～5（2021～2023）年度の3年計画として、第7期計画での目標や具体的な施策を踏まえ、2025年を目指した地域包括ケアシステムの整備、更に現役世代が急減する2040年の双方を念頭に、高齢者人口や介護サービスのニーズを中長期的に見据えることについて計画に位置付けます。

○高齢者施設における新型コロナウイルス感染症発生に備えた対応等について

（令和2年6月30日付事務連絡 厚生労働省）

・感染拡大防止に向けた取組

高齢者施設における感染拡大防止を図るため、4月7日付事務連絡等に基づく取組を引き続き進めます。

ご利用者様に対しては、感染の疑いについてより早期に把握できるよう、管理者が中心となり、毎日の検温の実施、食事等の際における体調の確認を行うこと等により、日頃から入所者の健康の状態や変化の有無等に留意します。

・感染者等が発生した場合に備えた人材確保

高齢者施設において感染者等が発生した場合、感染者である職員は入院若しくは自宅療養又は宿泊療養、濃厚接触者である職員は自宅待機となりますが、これにより職員の不足が生じたケースが考えられます。このような場合、勤務体制の変更、同一法人内での職員の確保、都道府県を通じた応援職員派遣、関係団体や近隣施設からの応援等により対応が行われます。

緊急時に備えて、平時より応援体制を構築しておくことが求められることから、都道府県においては、平時より介護保険施設等の関係団体と連携・調整し、緊急時に備えた応援体制を構築するとともに、感染者等が発生した場合の人材確保策を講じていきます。

高齢者施設においても、感染者等が発生した場合等に備え、人員体制に関する施設内・法人内等の関係者等と相談しておくこと等が考えられます。

○高齢者施設における新型コロナウイルス感染症発生に備えた対応等について

（令和2年6月30日付事務連絡 厚生労働省）

・高齢者施設における平時の対応等

高齢者施設の管理者等は、感染者や濃厚接触者が発生した場合等に備え、個室管理や生活空間等の区分けに係るシミュレーションや、人員体制に関する施設内・法人内等の関係者との相談、物資の状況の把握を行うとともに、感染者等が発生した場合の対応方針について、入所者や家族と共有をしておくこと等を考えていきます。

○その他

(1) 意思決定、合意形成、職場内情報共有

理事会（5月、7月、10月、1月、3月）、 評議員会（定時、随時）

運営協議会（年1回 5月）、 第三者委員会(3ヶ月に1回)

運営会議（毎月1回、随時）理事長・常務理事・参与・部長、 経営会議（毎月1回、随時）課長以上、 業務部会議（毎月1回、随時）、 拡大運営会議（10月 半期の見直し、2月 次年度の計画）係長以上

職員全体会議（年2回、随時）、職員研修会(毎月、録画視聴形式導入)

ケアカンファレンス、サービス担当者会議、入居判定委員会（年2回）

人材プロジェクト会議(トータルな人材マネジメントシステム構築)

(2) 地域、行政との連携

①運営推進会議（2ヶ月に1回）

地域密着型サービス事業所等の自治会毎に設置し、ご利用者様、市町村職員、地域住民の代表者等に対し、提供しているサービス内容等を明らかにすることにより、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質の確保を図ることを目的とします。

②定期巡回・随時対応型訪問介護看護 医療連携推進会議（6ヶ月に1回）

関係機関、地域住民との意見交換

(3) 委員会活動

委員会活動では、目的の明確化、部署間の職員の連帯、法人全体の業務改善に向けて、各事業所でのグループ活動の上位機関として委員会を設置し活動します。2021年度で再編成を行い、また、委員長会を立ち上げ、法人全体の委員会の統一化を図ります。

※各委員会の趣旨（別紙参照）

(4) サービスの質の向上

①サービス評価（自己評価・第三者評価）の受審

②苦情処理委員会の運営

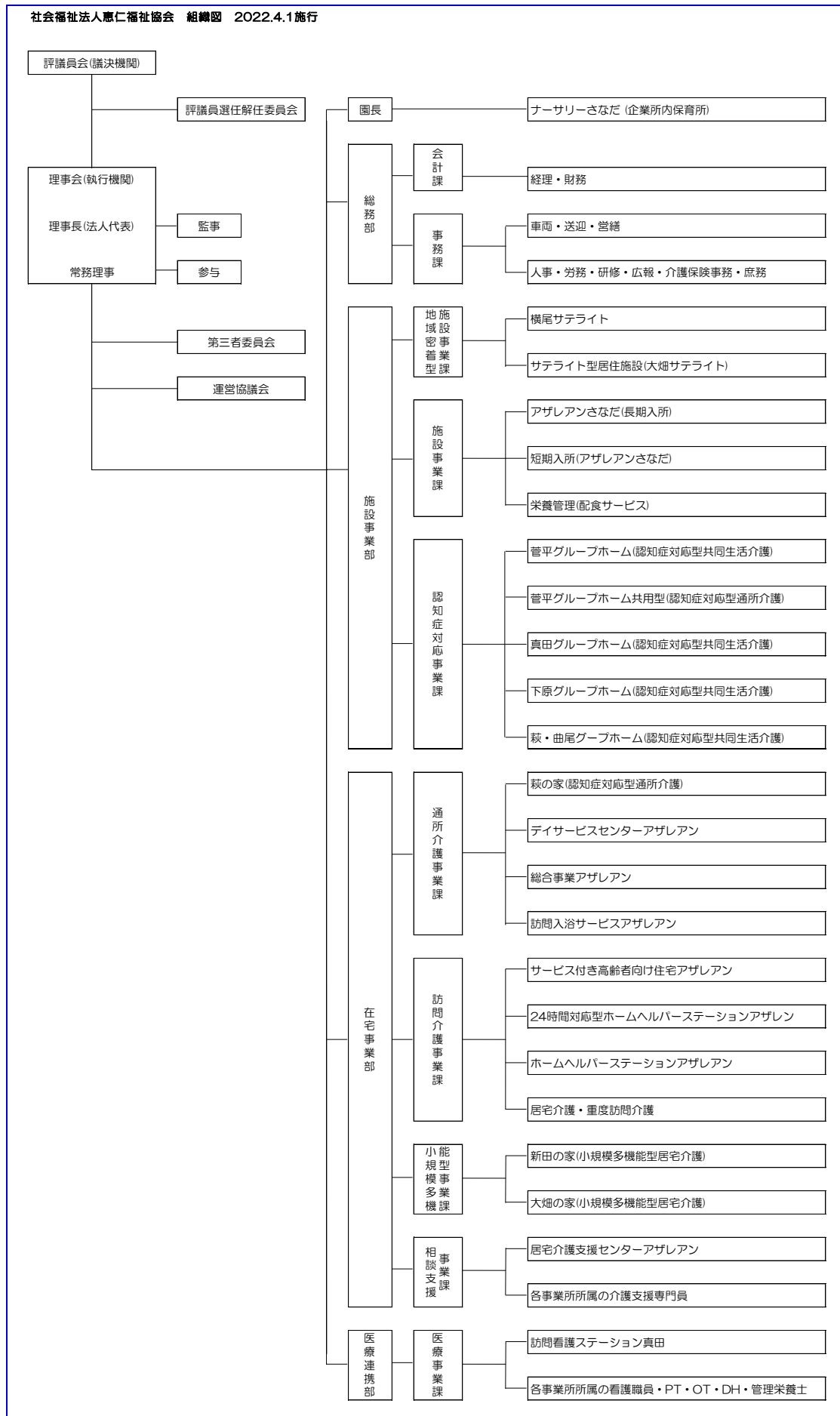
③情報公表制度の受審（各事業所に備える情報の整理）

④個人情報保護に関する指針の徹底

(5) 対外事業

- ・みまき福祉会・依田窪福祉会・大樹会と協同の「4法人合同研修会」等を実施
- ・認定NPO法人「新田の風」の活動との連携
- ・NPO法人「長野県・宅老所GH連絡会」の活動への協力
- ・一般社団法人「全国認知症介護指導者ネットワーク」の活動への協力
- ・NOP法人「全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会」の活動への協力
- ・かりがね福祉会・上田市社会福祉協議会真田地区センター・NPO法人さなだスポーツクラブ・真田の郷まちづくり推進会議と共同の「さなだ支え合い会議」の活動
- ・かりがね福祉会・上田市社会福祉協議会真田地区センターと共同の「にじいろカフェ」（こども食堂）の活動
- ・上小圏域小規模多機能事業所連携会への参加(法人数11、事業所数15)
- ・上小圏域グループホーム相互評価会「フレンド会」への参加(法人数7、事業所数13)
- ・公益財団法人「日本認知症グループホーム協会」の活動への協力

○法人の組織図



各委員会の趣旨

委員会	趣 旨	委員長 計画
倫理・人権委員会 (モラル・研修委員会)	倫理綱領に従い専門職としてサービスを提供できているか検証を行います。職員が行う事例研究等に対して倫理的な配慮のもとに実施されているか審査を行います。	太田・兼宗 2 か月に 1 回委員会を実施し、ご利用者様に極上のサービスが提供できているか検証し職員の意識向上に努めます
衛生委員会	職員の腰痛や転倒事故等の労災事故防止に向け巡視や危険予知活動などの安全衛生活動を行います。 (月 1 回の委員会を実施する)	志賀・小池 毎月の委員会実施により安全な職場環境に対する意識を高め、労災事故防止に努めます
安全委員会 (事故)	主に車両事故防止に向けた教育と事故検証を行います。	鎌田・加藤・唐澤 交通安全週間に合わせ年 4 回の委員会を実施し、全職員の意識の向上に努めます
安全委員会 (防災)	各事業所の防災対策意識を高める活動を行います。福祉防災施設として機能するための準備を行います。	田中広・西藤・宮島 3 か月に 1 回委員会を実施し、職員の防災・減災意識を高め有事に備えます
広報委員会	真田活き活きふるさと通信の広報誌を活用し、法人への理解を深めてもらう活動を行います。 ホームページへの掲載事項の更新を行います。	霧見・尾澤 年 4 回の通信を発行することで地域にアザレアンについて知ってもらうように努めます
感染症対策委員会	ご利用者様、職員に対する感染予防のための取り組みを行います。	佐藤・片山 2 か月に 1 回(状況により適宜)委員会を実施し感染予防を徹底します
地域支え合い委員会 (ボランティア委員会)	地域で活動する団体と協力し交流を深めるための活動や住みよいまちづくりのための活動を行います。	工藤・小林克 真田支え合い委員会と連携し、2 か月に 1 回委員会を実施し地域を盛り上げるイベントに協力します
リスクマネジメント委員会	介護事故への対応と処理に対してのルール作りを行います。	山口・上野 2 か月に 1 回委員会を実施し、事故の検証と他事業所と事故報告の共有を行い、事故防止に努めます
身体拘束適正化委員会 (虐待防止委員会)	ノーマライゼーションと人権尊重の理念のもと、法人一体となり身体拘束廃止に向けた取り組みを行います。	栗林・縷沢 定期的に委員会を実施し、アンケートや研修会を通して身体拘束・虐待防止の意味や方針を考える機会を提供します
褥瘡予防・栄養委員会	食の重要性と安全に関わる勉強会を行います。 (食事形態・栄養・メニューに関すること) 褥瘡の理解を深め褥瘡予防を各事業所に広める取り組みを行います。 困難事例の検討を通して具体的な治療・ケアを共有します。	池上・五十嵐 3 か月に 1 回委員会を実施し、褥瘡予防の理解を深め困難事例の検討を行い、事業所に発信します

Ⅱ 事業経営

○ 総務部の経営計画（部長：田中 晋）

理事長、常務理事を補佐し、法人全体に関わる各種業務の円滑な執行を図ってまいります。

事務課、会計課共に、職員間の業務分担・連携を明確にし、正確な処理と業務に遅れがないように取り組みます。また、下記の図を用いて自己分析を常に行える意識を持ちたいと思います。自分自身の本来の性格を客観的に確認し、仕事の中ではどのように対処していくべきなのかを考え、自分の弱みや欠点を把握して、強みと長所を業務に活かせるよう心掛けてまいります。

・組織規程・職務権限規程・職務分掌規程を制定しました。指針を定めて試験的段階から正式施行になります。新しい組織体制との兼ね合いも含めて、既存のものを継続しているものもあるので、運営会議や経営会議で修正・改善を協議しながら継続的にモニタリングを行ってまいります。

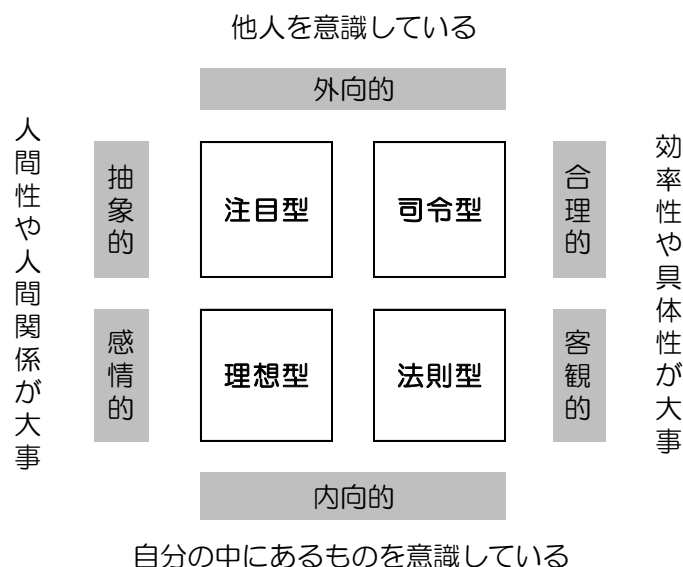
・法人内の情報共有については、グループウェアソフト(共有サーバー)を利用していますが、活用方法を含め、更に環境を整える必要があると考えます。法人内デジタル化の取り組みとして、脱判子化については、電子化することから始めなければなりません。そこで現在 Aipo で導入している電子起案の活用を更に充実したいと思います。一方で申請書等の書類自体の見直しも検討してまいります。

・ペーパーレス化については、経営会議・事業推進会議などの総務部(旧業務部)が事務局となる会議については、会議資料はデータ化し共有する Aipo の活用が定型化することが出来ています。今後は、日々の業務で使用する書類も極力、印刷せずにデータ保存する意識を高めてまいります。また、紙媒体でしかない書類は PDF 化しデータ保存してまいります。大きな目標の一つとして、給与明細書のメール配信を掲げてまいります。

・システムの効率化について検討してまいります。会計ソフト、介護保険ソフト、人事管理・勤怠管理・給与計算ソフトはそれぞれの分野に特化したシステムを用いて独立した業務として確立してきました。これらの業務を同一のソフトに移行することを検討します。会計処理につながるシステムの効率化が図れるとなれば、費用・労力ともにウエイトのかかる大きな決断となりますが、取り組むべき事業と考えます。

・財務においては、キャッシュフローに着目し、今後の事業運営・事業計画・修繕（改修）計画の判断材料になる資料作りを行ってまいります。また、理事会・評議員会における会計報告では、現時点での経営指数などを用いて客観的に状況を確認できる様式を開発して参りたいと思います。

・職員処遇に関する規則について、継続的にモニタリングを行ない常に改善意識を持って「働きやすい職場」風土を構築してまいります。



○ 事務課の経営計画（課長：宮川 浩）

- （１）施設維持
 - ・家電や建物の情報収集
 - ・各事業所見積もりのお手伝い
 - ・各業者への連絡と情報収集
 - ・業者の交渉
 - ・営繕業務
- （２）備品管理等
 - ・備品の発注、見積もり
 - ・在庫確認
- （３）対外的PRに関する事項
 - ・HP、パンフレット、商工会議所、Facebook 等の記事、編集
 - ・ハローワーク等各種求人への対応
- （４）車両管理、運転手管理に関する事項
 - ・車の修繕
 - ・運転者への情報提供
 - ・事故報告書の管理
 - ・事故緒所有者及びリース車の対応、最適化
 - ・消耗品の管理
 - ・運転手会議の開催と研修の実施
- （５）求人、職員募集に関する事項
 - ・各種説明会への参加
 - ・宣材の作成と準備
 - ・各種書類配布
 - ・職場説明会の開催
 - ・面談結果の手続き等
- （６）委員会活動、地域活動に関する事項
 - ・防災に関して
 - ・地域活動への参加 さな支え合い会議、にじいろカフェ、清掃ハイキング等
- （７）窓口業務に関する事項
 - ・業社来所者対応
 - ・郵便物管理
- （８）勤怠管理に関する事項
 - ・時間外労働の月初提出
 - ・事業所単位の勤怠確認
 - ・出社、退社の確認の徹底
 - ・勤務変更届の徹底

法人の「顔」として、「要」として、すべての業務の指示系統の発信元でもあるため、社会福祉法人として行政から求められる姿に少しでも近づいていけるように努力していければ、総務部としての存在感、必要性は必然的に増してくると思います。

30周年を迎える2022年度はその意味で大切な年になると思います。
具体的な方向性としては

- ①「アザレアンは真田町の顔」として地域になくてはならない存在にしていくこと
- ②職員が「アザレアンで働いていて良かった」と思える環境を整備していくこと
- ③将来に向けて希望の持てる計画を立案していくこと
- ④業者等対応で「アザレアンで仕事を取っている」ことが誇りになるような対応をすること
- ⑤勤怠について、各業務部門にて勤怠を把握しチェックしてもらうこと

といったことが考えられます。

また、人材の確保については外国人労働者の介護分野への導入が国主導の下で積極的に進められ、18歳人口の減少により県内の介護人材養成の学校閉鎖が相次いでいます。このような状況の中で社会福祉法人恵仁福祉協会の社会的総合評価が上げられれば新卒職員の募集だけでなく中堅職員や、中途採用、シングルマザーのような方の応募も多くなり、今後益々重要な人材確保になっていくと思います。

既に今までの実績から、「アザレアンさんに先ずご紹介します」といった動きも出来てきています。この流れをもっと大きなものとなるよう働きかけが出来ればと思っています。

是非総務部の事業内容を職員に理解頂きたいと思っています。

○ 会計課の経営計画（課長：依田和明）

法人の経営安定化、健全化に向けて正確な会計処理を行ってまいります。

- ・社会福祉法人は社会福祉事業、公益事業の達成と収益性の維持という二つの目標を達成させていく中で一定の利潤（利益確保）を得て、経営の安定化を図り、存続していく必要があります。
- ・4月からの社会福祉法人会計基準の一部改正（社会福祉連携推進法人取引、貸倒引当金関係）につきましては、会計事務所と連携を図りながら会計処理してまいります。
- ・決算処理では固定資産の再度見直を実施してまいります。
- ・各種振込業務（業者振込等）においては、間違いがないよう引き続き処理（チェック体制）してまいります。
- ・運営会議・経営会議で議論して頂けるよう出来るだけ分かりやすく、簡潔に状況把握できる各種会計資料を作成してまいります。
- ・理事会・評議員会における会計報告の様式を予算対比のみでなく、経営指標による他法人比較など工夫を考えてまいります。
- ・会計事務所及び法人監事と定期的な打ち合わせを実施し、会計処理の簡素化、効率化を図ってまいります。
- ・現在使用しております会計ソフトについても効率化の観点から変更する必要があるれば検討してまいります。
- ・取引金融機関からの経常運転資金調達による資金繰りの安定を図ってまいります。
- ・予算管理の徹底を図り、経費削減に努めてまいります。
- ・固定資産取得に関しては、予算計上分を含め起案時に事業所と再度協議させていただきたいと考えております。
- ・職員一人一人の職務分掌を確立し、より効率化、より質の高い会計処理を目標としてまいります。

2022 年度 事業計画（事務課）

事業所名

人事・労務・研修・介護保険事務・庶務 宮川 浩

定員（登録人数）

主な事業

職員の採用、異動、退職に係る事務	介護保険請求（実績、加算等）事務
社会保険（健保、厚年、雇保、労保等）事務	各種補助金、助成金事業の申請に係る事務
採用時、フォローアップ、中堅、幹部研修	緊急時、災害時の事務所サポート
各事業所備品管理等に係る事務	社会的認知度向上に係る事項

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・各事業所が円滑に業務遂行できるよう、事務サポートを行います。
- ・法人の顔として外来者、業者等に対し窓口、電話等での確な対応をします。

事業所目標・利用率

- ・職務分掌を確実に実行していきます。
- ・法人組織として各事業所が活動できるよう、各種規定の充実を図っていきます。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・30 周年事業の取りまとめ、補佐の他、法人として各事業所、職員が一体となって活動できるようにします。
- ・2022 年以降の新たなアザレアンとしての取りくみをアピールし、職員が誇りを持って働ける職場環境の改善に努めます。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・30 周年事業内容同様、アザレアンが地域に根差した活動を行っていることを発信、PR します。
- ・業者の発注、見積もり等を通じて信頼してもらえるよう働きかけていきます。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・災害時の発生時の備えと共に、地域行事等に積極的に参加できるよう働きかけます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画 （事務課）

事業所名

車両・送迎・営繕 鎌田賢治

定員（登録人数）

主な事業

車両管理（法人保有及びリース車）	運転手研修
車両維持（定期点検・整備・板金・保険等）	施設維持管理
運転手勤怠管理	備品修繕

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・ご利用者様に対して安全安心の送迎を提供します。
- ・配食サービスについては、ご利用者様に安全な運転で衛生的な食事を提供します。
- ・職員研修、個別面談を実施し、運転業務に従事する職員の意識向上を目指します。
- ・運行業務に支障が生じないように対応します。（維持管理、備品管理、環境整備等）
- ・各施設及び備品の維持管理をしていきます。（営繕・作業等）

事業所目標・利用率

- ・運転手の人員確保・運転業務配分の平常化に努めます。（可能な範囲内で検討する）
- ・運転手が送迎・配食業務に向上心、責任感を持って従事していきます。
- ・施設維持のための営繕及び修繕等をしていきます。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・30 周年記念事業の目標に則り、職員が意識を一つに送迎・配食業務に誇りをもって従事し、ご利用者様・ご家族様にご満足頂けるよう心掛けていきます。
- ・他部署と情報共有を強化し、協力して業務に従事していきます。
- ・可能な限り各施設の送迎の減便に協力頂き、経費軽減に努めます。
- ・交通事故ゼロを目標として職員の意識向上に努めます。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・笑顔でご利用者様の状態に合わせた送迎に努めます。（挨拶・接遇・気配り）
- ・送迎時は同乗した職員と協力してサービス提供を心掛けていきます。
- ・ご利用者様が楽しく過ごせるように、施設・備品の修繕を行います。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・感染症が発生した場合に対応した送迎・配食業務に努めます。感染拡大した際には感染対策（送迎車内での消毒・室内換気・私語等）の徹底をしていきます。引き続きサービス提供を行い地域へ貢献していきます。
- ・地域と連携して災害時には緊急連絡網を活用して、ご利用者様・職員などの移送を行います。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
リース車契約 キャラバン 1 台 (ディサービス)	アルコール検知器 購入(全事業所)	高圧洗車機(中古) 購入・設置	リース車契約 ハイゼット 1 台 (栄養管理)

2022 年度 事業計画（会計課）

事業所名

経理・財務 依田和明

定員（登録人数）

主な事業

月次試算表の作成	決算書の作成
財務諸表等電子開示システムの登録	資金繰り
買掛金（業者支払等）支払業務	各種サービス利用料口座振替手続き

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・法人内での役割を理解し、各事業所とも連携を図り正確な会計処理に努めます。
- ・専門性知識の向上を図り、的確な指示、対応が取れる体制づくりを目指します。
- ・職員の職務分掌の確立により、作業の連携化を図り効率化を図ってまいります。

事業所目標・利用率

- ・会計事務所との連携を図り、現在の会計処理事務での無駄を削減して、効率化を図ります。
- ・各会議において分かりやすく、簡潔な資料を提出してまいります。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・30 周年事業については、30 年という重みを感じるとともに、今後も引き続き地域の福祉事業に貢献できるよう地域との連携をより一層強めていけるよう各種行事に参加してまいります。
- ・経理事務の簡素化、効率化を進め、法人の経営安定化、財務体質の改善に努めてまいります。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・外部とのやり取りにおいては、当法人の活動内容等にご理解をいただき、ご協力をいただけるよう働きかけていきたいと思ひます。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・法人行事はもちろん地域行事にも出来るだけ参加してまいります。
- ・災害時に備えて地域住民との共同火災訓練等に参加するなどし、自分たちの役割をしっかりと把握してまいります。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

○ 施設事業部の経営計画（部長：永井悦子）

特別養護老人ホーム、短期入所、サテライト型居住施設、横尾サテライト、栄養管理、下原グループホーム、真田グループホーム、萩・曲尾グループホーム、菅平グループホーム、菅平グループホーム認知症対応型通所介護の経営をします。

施設事業部の中心となる特養は第一種福祉事業としての役割が今後さらに大きく期待される事業所です。施設に入居されているご利用者様だけでなく、ご家族、関係者の支援も役割の一つです。これは特養だけでなく、短期入所、サテライト型特養 2 か所、グループホーム 4 か所、認知症対応型通所介護にも同様に言えることです。

2022 年度の骨子に基づく経営計画としては、法人設立 30 周年を迎える今年度は、まず働いている職員が生き活きと仕事をしていることが重要となってきます。それは利用されている方々、関係者の方々に対し生活支援サービスが満足のいく内容、対応になっていくための第一歩になるからです。

運営理念・スローガンは職員一人ひとりがブレることのない想いになり同じ方向を向き前進するための道しるべになるものです。2021 年度から職員の中に少しずつ定着してきた運営理念・スローガンを全職員がいつも心に留め働いていき、問題に直面した際の解決の糸口になるよう今年度も定着に向け具体的な活動をしていきたいと考えています。そしてそのために職員が日々行動規範を実践することで職員の相互理解が深まっていくと考えています。

施設事業部では、終の棲家となることが非常に多く、人生の最期の時間をどう過ごしたかが問われます。しかし、人生の最期の時間を目標にするのではなく、『そのひとらしく、どう生きるか』を常に問い、ご利用者様、ご家族様、地域の方々とその都度真摯に向き合い支援の連続を切れ目なくつないでいきます。

今年度はご利用者様、ご家族様が笑顔で楽しめる活動を計画し、実施していきたいと考えています。人と人のつながりを軸にし、ご利用者様同士、ご家族様、地域の方々、職員とつながりを実感できるような活動です。感染症の心配される中、少しでもつながりを感じられる活動を計画していきます。

サテライト型特養 2 か所、グループホーム 4 か所、認知症対応型通所介護は地域密着型サービス事業所です。地域の方々のご理解ご協力が得られるよう事業所からの情報発信をしていき、地域活動に積極的に参加していきます。

短期入所と認知症対応型通所介護は施設事業部ではありますが在宅サービス事業所です。ご自宅での生活がよりその人らしく継続できるように支援していきます。それには他事業所との連携に努め、ご利用者様の変化にいち早く気づき重度化、重症化の予防を進めていきます。ご利用者様、ご家族様に『また来たい』と思われる事業所を目指し、次の利用が楽しみとなる活動を続けていきたいと考えています。

栄養管理のサービスは 365 日 3 食の配食サービスです。自宅で生活するうえで最も重要な食の提供です。さらに安否確認を行い、安心・安全を提供していきます。ご利用者様だけでなく、近隣住民の方々にもご理解、ご協力をいただき、地域ぐるみで支える中心となっていきます。また、施設やサ高住の食事の提供を行い、ご利用者様に喜ばれる、食の楽しみを提供していきます。

最期に非常災害時等の有事の際には地域の避難所としての役割があり、日々の備え、訓練を実施します。さらに地域の方々と一緒に訓練を行えるよう事業所から地域へ向け情報発信に努めていきます。

特別養護老人ホーム、短期入所、サテライト型居住施設、横尾サテライト、栄養管理を経営します。

【特別養護老人ホーム、サテライト型居住施設、横尾サテライト】

- ・職員の介護技術・介護の基礎知識の向上を目指すため、会議や勉強会の開催・参加を行います。
- ・理念の読み合わせを毎回申し送り時に行い、定着するようにしていきます。
- ・ユニット内での経費の把握に努め、経費節減に努めます。
- ・ご利用者の健康管理・健康状態の確認を行い、入院や事故防止に努めます。
- ・ご利用者の個別ケアを行うためケアプランを基に日々のケアに努めます。
- ・福祉用具の活用（スライディングシート、スライディングボード、リフト、眠りスキャン）を行いご利用者・職員が安全・安心・安楽な生活が送れるようにします。
- ・職員同士がコミュニケーションを取り合い、お互いを尊重しながら業務を行えるように職場の環境整備に努めます。
- ・エルダー制度を活用し、ユニット内だけではなく事業所、法人全体で新人の育成を行います。
- ・感染症予防対策として『持ち込まない、持ち出さない、拡げない』を基本に入居者の安全・安心な生活が送れるよう努めます。
- ・施設内の感染拡大時の基礎的な対応方法を確立しマニュアル作成していく。
- ・ご利用者様、ご家族様が笑顔で楽しめる活動として、食事会を計画しています。

（サテライト型居住施設、横尾サテライト）

- ・運営推進会議で地域住民との繋がりを維持し、非常災害時には相互の協力が取れるよう関係性の構築を目指します。
- ・非常災害時を想定した避難訓練に参加を依頼します。
- ・地域での活動に参加します。（掃除、運動会、避難訓練等の自治会活動）

【短期入所生活介護】

＊上記は同様 以下は短期入所のみの経営計画

- ・緊急時やレスパイトケアに対応します。
- ・他事業所との連携を取り、ご利用者様の在宅生活が継続できるよう情報の収集、発信に努めます。
- ・ご利用者様の在宅での役割、いつもしていること、これからやりたいこと、これからできることを明確にし、アクティビティ活動やサービス利用中の活動の中で継続できるよう支援します。

【栄養管理】

- ・安全・安心な食事提供に努めます。
- ・ご利用者様のニーズ（嗜好、健康状態）に合った食事を作ります。
- ・地域住民の『食』の一部を支え、地域で生活できる環境作りに協力します。
- ・関係事業所と連携を取り、ご利用者様のニーズに沿ったメニューを考え提供します。
- ・職員同士がコミュニケーションを取り合い、お互いを尊重しながら業務を行えるように職場の環境整備に努めます。
- ・非常災害時、感染症拡大等の非常時に備え、法人の委員会等の連携を取ります。

2022 年度 事業計画（施設事業課）

事業所名

特別養護老人ホームアザレアンさなだ 係長 大久保佳菜

定員（登録人数）

30 床

主な事業

多床室	15 床	
従来型個室	15 床	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

現在、会議の前に復唱することが定着してきているが、各ユニットごとに申し送り前にも復唱し運営理念・スローガンに触れる機会を増やしていきます。

事業所目標・利用率

2021 年度後期は入院者はいなかったが、亡くなられる方が多い年度でした。今後も“看取り”ケアについて考え、学んでいきます。
ご利用者の体調等、変化に気付き早期発見・早期対応に努め利用率に繋がります。
スタッフ自身の体調管理を徹底していきます。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
98.01%	97.98%	98.90%	(95.50%)	98%

具体的行動計画

- ① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

『受容・共感・尊重』を意識し、職員の相互理解を深めることで更に協力・連携できる職場を目指します。
30 周年事業を基に地域や他事業所への理解を深められるよう努めていきます。

- ② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

ご利用者の笑顔のために、誕生日会の計画としてご家族参加の食事会やユニット内でのお祝いを毎月ごとに考えていきます。
また、季節に接することができる行事を立案し、楽しんで頂ける機会を増やします。
コロナウイルスの感染状況により面会やご利用者の行動を制限せざるを得ない中で安心・安全に配慮し気分転換になるような行事等を計画していきます。

- ③ 地域の応援団を強化していきます

感染症や災害発生時でもご利用者に必要なサービスを提供するため、勤務形態や 1 人 1 人が考え行動できるよう働きかけていきます。
コロナ禍ということもあり地域との交流が難しい状況ではあるが、避難訓練等への参加等、出来ることを行い、連携に繋がっていきます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画 （施設事業課）

事業所名

短期入所(アザレアンさなだ) 係長 栗林竜也

定員（登録人数）

21 床

主な事業

短期入所生活介護(併設型)	障害サービス 短期入所(空床利用)
多床室 20 床	
従来型個室 1 床	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

手元で読めるように運営理念、スローガンを書いた用紙を用意し、毎回の申し送りの初めに復唱をしていきます。

事業所目標・利用率

ご利用者様に対して職員全員が最善のケアを同じように行えるように検討・周知する場をより多く持つようにします。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
101.68%	105.80%	93.00%	(95.00%)	

具体的行動計画

- ① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

職員の相互理解を念頭に、ひとりひとりの考えを引き出し、意見交換を大切にしていき同じ方向を向いていけるようチームワークを強化します。

- ② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

作品制作や集団体操などを通じて生活の中に“楽しい”という気持ちを持っていただけるようにします。

- ③ 地域の応援団を強化していきます

在宅サービスとしてご利用者の生活を守れるように、またご利用者の不安を軽減できるように、安心できる生活の場の提供に努めます。
アザレアンのショートステイの生活を知ってもらえるような情報を発信します。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画 （地域密着型施設事業課）

事業所名

大畑サテライト 係長 山崎礼治

定員（登録人数）

12 床

主な事業

ユニット型個室 12 床

法人の運営理念、スローガンを定着するために

事務所やトイレ等、目につく場所に理念・スローガンを掲示します。申し送り時に復唱し、「見る、聴く、言う」機会をつくり、職員一人ひとりが常に意識できる環境をつくります。

事業所目標・利用率

入院者の減少、空床のベッドをつくらないようにし、稼働率 95%を目指します。ご利用者の身体状態の変化に注意し、細めな安否確認や異常の早期発見等に努めます。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
96.32%	92.72%	96.00%	(95.00%)	95.00%

具体的行動計画

- ① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

『受容、共感、尊重』を大切にし、ユニット会議や定期的な面談を実施します。コミュニケーションやお互いを指摘しあえる環境をつくり、明るく活気のあるユニットを目指します。

- ② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

誕生日に家人と食事会や誕生日会、レクリエーション等、皆が笑顔で楽しめる活動を計画し、実施します。

- ③ 地域の応援団を強化していきます

地域行事には可能な限り参加し、避難訓練等の実施時は地域住民の参加が得られるように連携に努めます。また、運営推進会議や回覧板を活用し、顔の見える関係づくりに取り組んでいきます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画（地域密着型施設事業課）

事業所名

横尾サテライト 係長 小林克也

定員（登録人数）

10 床

主な事業

ユニット型個室 10 床

法人の運営理念、スローガンを定着するために

先に勤務していた職員が後から勤務する職員に申し送りをする前に、運営理念・スローガンの復唱を求める事により、定着を図っていきます。

事業所目標・利用率

「今月の目標」に対する具体的な取り組みと先月の自己評価は継続し、利用率 98% の目標達成に向けたご利用者の健康管理の為に、職員日誌の新たな活用方法を模索・構築していきます。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
99.00%	95.51%	96.00%	(98.00%)	98.00%

具体的行動計画

- ① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

職員間の相互理解と団結を深めるため、実践して上手くいった事例を共有する場を作り、更なる技術向上とご利用者の安心・安全を目指していきます。

- ② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

コロナ禍で会えないご家族の為に、一枚でも多くの笑顔の写真が撮れるよう、お誕生日の食事会を含め、毎月催し物を計画し実施していきます。

- ③ 地域の応援団を強化していきます

地域とのつながりの窓口はご利用者のご家族であると考え、定期的に写真を含めた近況報告などを送り、積極的にご家族にアプローチをする事で信頼を得、ご家族を通じて地域から頼りにされる存在になれるよう努めていきます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
乾燥機(家庭用)			
掃除機(家庭用)			

2022 年度 事業計画（施設事業課）

事業所名

栄養管理 係長 片山智恵美

定員（登録人数）

主な事業

特養・通所の食事提供	サ高住食事提供
配食サービス (市・さなだクリニック・個人)	保育所(ナーサリー)食事提供

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・理念・スローガンを職員一人ひとりが意識出来る機会として、栄養管理会議の中で確認します。
- ・気持ちの良い職場環境の中で職員が情報共有し、楽しみのあるより良い食事提供を目指します。

事業所目標・利用率

- ・職場環境作りや情報共有をすることで、職員間での理解を深めお互いを支えながら繋ぐ作業を心掛けます。
- ・他職種・外部との連携を行いニーズに合った食事提供を目指します。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・情報共有と持続を心掛け、誰が作っても常に同じものを提供する意識と技術を統一出来る職場環境作りをします。
- ・ニーズに応える食事作りの為に、向上心を忘れず楽しみ・やりがいを見出せる環境作りを目指します。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・ご利用者様にとって期待が持てる食事献立・取り組みをします。
- ・新しいことに職員全員で楽しんで挑戦出来る姿勢を目指します。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・配食サービスによる在宅支援を継続します。
- ・災害時には防災委員会と連携し、支援要請に協力できるよう職場内でも意識を持ち行動できるように努めます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
・活水・殺菌灯・ミキサー 部品の購入 ・エアコンクリーニング			

○ 認知症対応型事業課の経営計画（課長：田中広一）

萩・曲尾グループホーム・下原グループホーム・真田グループホーム・菅平グループホーム・菅平グループホーム共用型の安定した経営・運営をします。

- ・理念に立ち返り、ご利用者様の意思を尊重した暮らしを支援できる、働きがいと魅力のあるグループホームを目指します。
- ・人生の最期の時間をどのように生きていきたいのかご利用者様・ご家族様・医療・看護・専門職・介護と対話をして、ご本人の意思・ご家族の思いを形にできる実践を行います。
そのためにも勉強会や意見交換会を行いケアの質の向上に努めます。
- ・グループホームに入居することで、大事な人やご家族様との関係性が細くならないように、その方たちと笑顔で楽しく過ごせる活動を計画していきます。
- ・コロナ禍で薄れてきている地域の皆様との関係性を再構築していきます。
- ・非常災害時を想定した訓練を行い防災・減災・感染症対策への意識を高め有事に備えます。

2022 年度 事業計画 （認知症対応型事業課）

事業所名

萩・曲尾グループホーム 係長(管理者) 西藤一成

定員（登録人数）

6 名

主な事業

認知症高齢者の生活支援

緊急待短期利用

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・理念の復唱をおこないます。
- ・悩んだら一度理念に立ち返ります。
- ・理念とスローガンについて、自分たちの事業所に当てはめて話し合います。

事業所目標・利用率

- ・早期発見、早期連携、早期治療「入院者0」を目指します。
- ・利用率 98%（年間空床日数 44 日以内）

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
101.98%	97.24%	93.71%	91.17%	(98.00%)

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・職員同士の理解を深めるために、職員それぞれが事業所の中で役割を持ってお互いを支え合います。
- ・各居室担当が情報の吸い上げを行い、皆の前で問題提起していける仕組みづくりに取り組みます。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・ご利用者様の笑顔のために、期間ごとに活動内容を決めて実施します。
- ・ケアプランに沿って、『その人らしい』生活を考えます。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・ご家族に向けた日々の生活の様子を、電話や写真にてお届けします。
- ・地域の皆様に『知ってもらう』ための広報活動・宣伝を行います。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画（認知症対応型事業課）

事業所名

下原グループホーム 係長(管理者) 田中広一

定員（登録人数）

6名 2ユニット

主な事業

認知症高齢者の生活支援	
緊急待短期利用	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・「人として 幸せに 安心して 生きる日々を大切に」出勤時・会議に復唱します。
- ・理念に立ち返り、ケアの方向性をチームみんなで決めて実践します。
- ・「笑顔・挨拶・清潔・身だしなみ・理解・感謝」6つを実践します。

事業所目標・利用率

- ・早期発見、早期連携、早期治療「入院者0」を目指します。
- ・利用率 98%（年間空床日数 44 日以内）

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
98.05%	96.31%	96.63%	96.95%	98%

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・職員間の相互理解を深めるために、理念に基づいた良かった事例をチームで共有します。
- ・報、連、相、打、根を徹底し、良かったことを認め合える、働きがいのある職場を作ります。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・大切な人・ご家族との時間を調整し、一人ひとりの思いを笑顔という形で写真と共に楽しい思い出をたくさん作ります。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・施設の枠にとらわれず、地域の一員・隣の一軒家として明るい挨拶からさらに良い関係を作ります。
- ・地域の活動に参加します。
- ・地域の皆様にグループホームを知ってもらうため、広報・宣伝をします。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画 （認知症対応型事業課）

事業所名

真田グループホーム 係長(管理者) 五十嵐由美子

定員（登録人数）

6 名

主な事業

認知症高齢者の生活支援	
緊急待短期利用	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・「人として 幸せに 安心して 生きる日々を大切に」毎朝復唱します。
- ・事業所会議で「運営理念・スローガン・行動規範」を全員で唱和します。

事業所目標・利用率

- ・早期発見、早期連携、早期治療「入院者0」を目指します。
- ・利用率 98%（年間空床日数 44 日以内）

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
98.45%	95.18%	96.24%	96.03%	98%

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・個人をリスペクトできるように職員間で名前を付けてあいさつ、会話し信頼し合えるチームを築いていきます。
- ・良かったことは言葉にして伝えあいます。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・ご利用者様が笑顔で楽しめる活動の計画は躊躇せず、職員一人一人のチャレンジを応援します。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・真田グループホームの活動をお伝えしていきます。
- ・地域の活動に参加していきます。
- ・ご近所、地域の方とあいさつを通じ、よい関係づくりをしていきます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
	玄関フローリング	和室フローリング	掃除機

2022 年度 事業計画（認知症対応型事業課）

事業所名

菅平グループホーム 係長(管理者) 縷沢智子

定員（登録人数）

6 名

主な事業

認知症高齢者の生活支援

緊急待短期利用

法人の運営理念、スローガンを定着するために

・運営理念・スローガンに沿ったサービス提供が出来ているか、日常のケアを振り返り、職員間で話し合い、確認をしていきます。（カンファレンスの時間を利用）

事業所目標・利用率

・早期発見、早期連携、早期治療「入院者0」を目指します。
・利用率 98%（年間空床日数 44 日以内）

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
99.73%	92.26%	99.32%	98.7%	98%

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

・職員の専門性や技術の向上を図り、サービスの質を高めます。
・人材育成に向けた担当業務の見直しと業務内容の共有化を行います。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

・各ご利用者に適した、ワクワク・ドキドキが感じられるアクティビティの提供を含めた日々の充実化に努めます。
・年中行事やお誕生日祝い等のイベントをご利用者様にも準備から楽しみ、盛り上げて頂くように計画・実践していきます。

③ 地域の応援団を強化していきます

・健康リハビリ体操や地域活動に参加します。
・広報に配布など施設の宣伝に努めます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
給湯器 23 万円	冷蔵庫	食洗機	

2022 年度 事業計画 （認知症対応型事業課）

事業所名

菅平グループホーム共用型 係長(管理者) 縷沢智子

定員（登録人数）

3 名

主な事業

通所サービス	
保険外宿泊サービス	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

・運営理念・スローガンに沿ったサービス提供が出来ているか、日常のケアを振り返り、職員間で話し合い、確認をしていきます。（カンファレンスの時間を利用）

事業所目標・利用率

・施設の運営内容の発信に努め、登録者数を増やします。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
668 件 月平均 55 件	278 件 月平均 23 件	365 件 月平均 30 件	(325 件)	(360 件)

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

・職員の専門性や技術の向上を図り、サービスの質を高めます。
・人材育成に向けた担当業務の見直しと業務内容の共有化を行います。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

・ご利用者様が楽しめるアクティビティの充実化に努めます。
・年中行事やお誕生日祝い等のイベントをご利用者様にも準備から楽しみ、盛り上げて頂くように計画・実践していきます。

③ 地域の応援団を強化していきます

・健康リハビリ体操や地域活動に参加します。
・広報に配布など施設の宣伝に努めます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
給湯器 23 万円	冷蔵庫	食洗機	

○ 在宅事業部の経営計画（部長：志賀早百合）

住み慣れた地域で在宅生活を送るご利用者様とご家族様を支えるため、在宅事業部として通所介護事業課、訪問介護事業課、小規模多機能型事業課、相談支援事業課の経営をします。

- ・通所介護事業課ではデイサービスセンターアザレアン、萩の家（認知症対応型通所介護）、総合事業アザレアン、訪問入浴サービスアザレアンを運営します。
ご利用者様の身体機能維持・向上を目指し、機能訓練、健康観察を行ないながら、ご利用者様に楽しく利用していただくためのアクティビティも計画を立て実施していきます。
訪問入浴では体調に留意しながらご自宅での安心・安全な入浴を提供します。
- ・訪問介護事業課ではホームヘルプステーションアザレアン、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、居宅介護・重度訪問介護（障害）、サービス付き高齢者向け住宅アザレアンを運営します。
関係機関と連携を取りながらお一人お一人の訪問介護計画に従い、24 時間体制でご利用者様とご家族様の在宅生活を支えていきます。
サービス付き高齢者向け住宅アザレアンでは生活の拠点となる居室を提供し、外部サービスもご利用いただきながらご自宅と同じように過ごして頂けるよう支援を行ないます。
- ・小規模多機能型事業課では新田の家（小規模多機能型居宅介護）、大畑の家（小規模多機能型居宅介護）を運営します。
小規模多機能型事業課ではご利用者様お一人お一人の生活状況を把握し、通い・訪問・宿泊サービスを組み合わせ、ご利用者様のニーズに沿ったサービスを提供していきます。
- ・相談支援事業課では各事業所所属の介護支援専門員を統括し、居宅介護支援センターアザレアンの運営をします。
ご利用者様の在宅生活の継続・維持を目的に介護サービスの窓口として公正中立な立場でニーズに対応したサービスの組み合わせや関係機関との調整、相談援助を行ないます。
また、研修や事例検討会等を計画的に実施し、介護支援専門員のスキルアップを図ります。

2022 年度、在宅事業部の経営計画では事業所ごと法人の運営理念、スローガンを定着させるための行動を起こし、それぞれの事業所が目標達成のため立案した具体的な行動計画である

- ①30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します
- ②ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます
- ③地域の応援団を強化していきます

の3 項目を実践し、経営の安定化・健全化を図ります。

また、信頼され選ばれる事業所を目指すために全ての職員が行動規範を実践し、それぞれの役割を果たしながら事業所間の連携強化に努めます。在宅事業部ではご利用者様・ご家族様との出会いを大切にし、在宅においてご利用者様が抱える様々な課題にチーム一丸となって向き合い支援していきます。

昨年度より引き続き取り組まなければならない課題として感染症対策があります。新型コロナウイルス感染症が私達の身近な所でも拡大している現状もあり、更なる感染対策が必要とされています。職員の健康管理と基本的な対策をしっかりと行なうと共に、事業所ごとに対応策を検討し有事に備えていきます。

非常災害についても各事業所で「非常災害対策計画書・避難確保計画書」を作成し、地域の危険箇所の把握と避難訓練等にも参加し非常災害時に備えます。ご利用者様に対しても住宅環境、家族構成など考慮しながら災害時の支援を行なっていきます。

○ 通所介護事業課の経営計画（課長：太田浩子）

デイサービスセンターアザレアン、訪問入浴アザレアン、日常生活支援総合事業アザレアン、認知症対応型通所介護 萩の家 の業務の円滑な経営を図ります。

【デイサービスセンターアザレアン】

- ・ご利用者様の意思及び人格を尊重して、常にご利用者様の立場に立った、サービスの提供に努めます。
- ・ご利用者様が可能な限り在宅生活を継続できるよう生活機能の維持、向上を目指します。
- ・ご利用者様の在宅生活に役立つ機能訓練やアクティビティ活動を行います。
- ・関係機関との連携強化、多職種との情報共有を行い、ご利用者様の健康管理に努めます。
- ・身体機能の維持・向上のため、専門職が関わりアセスメント、評価を行います。
- ・ご家族様の介護負担の軽減のため、介護技術や介護知識等に関する相談、支援を行います。
- ・ご家族様の介護負担軽減を目的としたレスパイトケアの支援を行います。
- ・経営の安定化を図る為、人員配置、収入・支出の見直し、新規獲得に努めます。
- ・感染予防を心掛けながら、健康を維持し、ご利用者様に必要なサービスが安定的に提供される体制を構築します。
- ・非常災害時に備えて、地域の皆様と合同避難訓練を実施していきます。

【日常生活支援総合事業アザレアン】

- ・ご利用者様の意思及び人格を尊重して、常にご利用者様の立場に立った、サービスの提供に努めます。
- ・ご利用者様が可能な限り居宅において、自立した生活を営むことができるよう努めます。
- ・ご利用者様の生活機能の維持・向上を目指します。
- ・地域との結びつきを重視し、市、他の関係機関との連携に努めます。
- ・ご利用者様の社会交流の場を提供します。
- ・ご利用者様の身体機能のアセスメント、評価を行います。
- ・介護技術や介護知識に関する相談、支援を行います。
- ・非常災害時に備えて、地域の皆様と合同避難訓練を実施していきます。

【訪問入浴アザレアン】

- ・ご利用者様の選択と自己決定を尊重し、ご利用者様の尊厳に配慮したサービスの提供に努めます。
- ・在宅で入浴困難なご利用者様に対し、安心・安全な入浴サービスを提供します。
- ・ご利用者様、ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、心地よい入浴サービスを行います。
- ・ご家族様の介護負担の軽減のため、介護技術や介護知識等に関する相談、支援を行います。
- ・関係機関との連携強化、多職種との情報共有を行い、ご利用者様の健康管理に努めます。
- ・ターミナル期のご利用者様に対し、身体状況を考慮し精神的な苦痛の軽減を行います。
- ・経営の安定化を図る為、人員配置、収入・支出の見直し、新規獲得に努めます。

【認知症対応型通所介護 萩の家】

- ・ご利用者様の意思及び人格を尊重して、常にご利用者様の立場に立った、サービスの提供に努めます。
- ・組織の一体化を図るために、チームとして信頼し合える仲間づくり、意識して人の好い所を発見して感謝の言葉を伝えていけるよう努力していきます。
- ・職員の専門性とケアの資質向上に努めます。
- ・早期発見、早期治療、行動予測による重大事故回避に努め、収益をあげ経営の安定を図ります。
- ・ご家族様の介護負担の軽減のため、介護技術や介護知識等に関する相談、支援を行います。
- ・ご利用者様一人ひとりの情報を関係機関、ご家族様へ報告を継続できるよう努めます。
- ・経営の安定化を図る為、人員配置、収入・支出の見直し、新規獲得に努めます。
- ・感染予防を心掛けながら、健康を維持し、ご利用者様に必要なサービスが安定的に提供される体制を構築します。
- ・地域や小学校との可能な限り、交流の場を構築します。
- ・非常災害時に備えて、地域の皆様と合同避難訓練を実施していきます。

2022 年度 事業計画（通所介護事業課）

事業所名

萩の家 係長(管理者) 酒井知子

定員（登録人数）

12 名(1 日あたり)

主な事業

通所サービス	
保険外宿泊サービス	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・法人理念の毎朝の復唱を継続して実践していきます。
- ・行動規範「6 つの実践」を実践していきます。
- ・月 2 回の事業所会議を開催します。

事業所目標・利用率

- ・ご利用者様の思いに寄り添い、在宅生活を支えるため健康状態の観察や身体機能の維持、向上を目指します。
- ・ご利用者様、ご家族様、多職種との信頼関係の構築に努めます。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
2,483 件 月 206.9 件	1,948 件 月 162.3 件	2,172 件 月 181 件	(2,236 件) 月 186 件	(2,255 件) 月 187 件

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・職員同士の相互理解を深め、働きやすい職場にするために「6 つの実践」を行います。
- ・ご利用者様が住み慣れた地域で生活していくため、多職種と連携し支援を行います。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・日々、ご利用者様の「やりたいこと・出来ること」の実践を目指し、生きがいや楽しみを職員も共に共感していきます。
- ・季節を体感できる行事の計画を行い実践することで、ご利用者様が笑顔で過ごしていただけるようにします。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・非常災害時に備え、地域住民の方々と交えた防災訓練を開催します。
- ・ご利用者様に必要なサービスが安定的に提供できるよう日々の感染対策を行います。
- ・感染対策を行い、地域や小学校・保育園との交流を継続して行います。
- ・法人のフェイスブックを活用し、事業所の活動を発信していきます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
冷蔵庫・洗濯機 食洗器修理	エアコンクリーニング	NDソフトウェア	

2022 年度 事業計画（通所介護事業課）

事業所名

デイサービスセンターアザレアン 係長(管理者) 永井琢郎

定員（登録人数）

40 名

主な事業

通常規模型通所介護の運営	地域でのキャラバンデイサービスの実施
通所介護相当サービスの運営	
基準該当生活介護の運営	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・月 1 回のデイサービス会議による情報共有。
- ・年 1～2 回の職員定期面接の実施。
- ・月 1 回の職員研修会の実施。
- ・行動規範『6 つの実践』を実践していきます。

事業所目標・利用率

・ご利用者様が住み慣れた地域で生活していくために、多職種による健康状態の観察や身体機能の維持・向上を目指します。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
95.0 名 99.8%	92.8 名 99.0%	82.4 名 86.2%	85 名 86.5%	87 名以上 88%以上

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・職員同士の相互理解を深め、働きやすい職場にするために「6 つの実践」を実践します。
- ・多職種で連携しご利用者様が在宅生活を継続できるように支援します。
- ・ご利用者様が満足できるケアを行うために、職員が専門性を学べるよう積極的に職員研修会に参加します。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・毎日行うアクティビティを積極的に取り組み、多くのご利用者様に生きがいや楽しみを持って、笑顔で過ごしていただくようにします。
- ・感染対策を行った上で実施できる行事を計画し、行事の中で四季折々の季節を感じていただけるようにします。
- ・ご利用者様が笑顔で過ごされている様子がわかるように、写真に残してご利用者様、ご家族様に提供していきます。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・非常災害時に地域住民の皆様と共同できるように、避難訓練等の実施に当たっては地域住民の参加が得られるように連携に努めていきます。
- ・安定的にサービスを提供できるように、継続した感染対策の実施を行っていきます。
- ・地域の皆様からキャラバンデイサービス等の依頼があった際には、感染対策を行いながら実施できるように協力します。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
シャワーホルダー修繕	リフト用シャワーチェア	エアコンクリーニング	テーブル リフトリモコン

2022 年度 事業計画 (通所介護事業課)

事業所名

訪問入浴サービスアザレアン 係長(管理者) 池上茂子

定員 (登録人数)

8 名 / 日

主な事業

訪問入浴介護	予防訪問入浴介護
障がい福祉訪問入浴介護	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・職員一人ひとりが法人の理念を意識、共有していきます。
- ・ご利用者様の個性、意思を尊重し尊厳に配慮したサービスを提供します。
- ・在宅で入浴困難なご利用者様に対し安心、安全なホッと心休まる入浴提供を行います。
- ・訪問入浴会議時に運営理念、スローガンの読み合わせを行います。

事業所目標・利用率

- ・稼働率 90%以上を目指します。
- ・サービス、ケアの向上を目指します。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
1,245 件	1,369 件	1,657 件	1,560 件	1,750 件

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・ご利用者様、ご家族様の意思を最大限に尊重し心地良い入浴時間を提供します。
- ・ご利用者様、ご家族様の思いに寄り添い、積極的にコミュニケーションを図ることで「受容、共感、尊重」を大切にしていきます。
- ・チームで同じ目標、目的に向かって信頼関係を構築し感謝の気持ちを持ち続けます。
- ・スタッフ間でも個性を認め相互に尊重しやりがいを感じられる職場環境を目指します

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・個々のニーズに加え興味や関心などスタッフ間で調べ情報共有していきます。
- ・外を見ることのできないご利用者様に景色などの写真を撮り、季節感を感じて楽しい入浴時間を過ごしていただきます。
- ・誕生日プレゼントや入浴剤の工夫、季節感を取り入れたサービスの提供を行います。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・安心して頼れる存在であり続けられる様にご利用者様に寄り添ったサービスを行います
- ・多様化、広範囲での利用に対応できるよう、適正な人員配置を行い、NO と言わず YES からを実行します。
- ・地域の皆様が安心して暮らせるよう、ご自宅で入浴が困難になっても身体への負担が少なくご利用者一人ひとりに寄り添った入浴サービスを行います。
- ・災害時は地域、関係機関と連携していきます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
		車両点検 タオル等	

2022 年度 事業計画（通所介護事業課）

事業所名

総合事業アザレアン 係長(管理者) 永井琢郎

定員（登録人数）

13 名（1 日あたり AM13 名・PM13 名）

主な事業

日常生活支援総合事業の運営

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・総合事業職員間での情報共有を行っていきます。
- ・行動規範「6 つの実践」を実践していきます。

事業所目標・利用率

- ・ご利用者様の皆様が運動や社会交流により、フレイルを予防し身体機能の維持・向上を目指していきます。
- ・生活課題が解消できるように専門職の評価や運動プログラムの実施を行っていきます。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
19.3 名 54.4%	23.6 名 50.9%	25.3 名 43.7%	29.3 名 48.6%	31 名 52%

※実績は上段が年間平均登録者数、下段が年間平均稼働率。稼働率は開催日の増加に伴い最大延人数が変わるため、登録者数が増えていても稼働率が下がっている事がある。

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・総合事業の職員はほとんど全員が別の業務を兼務しているため、業務後に情報の共有を行います。
- ・働きやすい職場にするために「6 つの実践」を実践します。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・事業所の移転もあり、新しい事業所の環境整備を行います。
- ・在宅生活を継続できるように日頃の運動プログラムの実施や、ご利用者様のヘルスリテラシーの向上に繋がる取り組みを行います。
- ・ご利用者様同士、社会交流の場を提供して新たな関係性が構築できるように支援します。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・事業所の移転に伴うため新しい地域でもサービスが定着するように、ご利用者様や地域住民の皆様、関係機関との連携調整に努めます。
- ・非常災害時に地域の皆様と共同できるように、避難訓練等の実施に当たっては地域の皆様の参加が得られるように連携に努めていきます。
- ・安定的にサービスを提供できるように、継続した感染対策の実施を行っていきます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
マシン購入 新規設備用品他			

○ 訪問介護事業課の経営計画（課長：志賀早百合）

訪問介護、訪問型独自サービス、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、居宅介護・重度訪問介護、有償日常生活支援サービス、サービス付き高齢者向け住宅を運営します。

＜訪問介護、訪問型独自サービス、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、居宅介護・重度訪問介護、有償日常生活支援サービス＞

- ・経営の安定を図るため、毎月の収支確認と目標・予算に対しての達成率を職員間で共有します。
- ・ご利用者様が可能な限り在宅生活を継続できるよう支援します。
- ・ご家族様の介護負担軽減を目的としたサービスの提供をします。
- ・ご利用者様一人ひとりの訪問介護計画書に従いケアの統一を図り、その方が必要とされるサービスの提供をします。
- ・職員の専門性と技術向上を図るため職員の育成を行ないます。
- ・ご利用者様、ご家族様との信頼関係を築きます。
- ・ご利用者様の健康状態や変化に気づき、関係機関への報・連・相を行ないます。
- ・ご利用者様の状態変化によりケア内容の変更等を提案していきます。
- ・家族介護者に対しても相談やケア方法などの支援を行ないます。
- ・有償日常生活支援サービスは介護保険では利用できないサービスに対して支援を行ないます。
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護は介護度により定額制となっており、定期的な訪問と随時の訪問を組み合わせ、日中・夜間を問わず 24 時間体制で支援を行ないます。
- ・感染対策を徹底しご利用者様や職員への感染防止に努めます。
- ・非常災害時などに対応できる体制を整えます。

＜サービス付き高齢者向け住宅アザレアン＞

- ・空室の情報提供を行ない空室期間の短縮と 100%の稼働率を目指します。
- ・入居者様の尊厳保持、プライバシー保護に努めます。
- ・入居者様一人ひとりの生活スタイルに合わせた支援を行ないます。
- ・日々の健康観察を行ない体調管理に努めます。
- ・入居者様が生活を送る上での困りごとや心配事などの相談援助を行ないます。
- ・入居者様が関係する他職種との情報交換・情報共有・情報提供に努めます。
- ・ご家族様との良好な関係を築きます。
- ・住宅内の環境整備に努めます。
- ・入居者様同士の交流やご家族様との繋がりを大切にします。
- ・自治会、地域住民との交流を図ります。
- ・感染対策を徹底し入居者様や職員への感染防止に努めます。
- ・避難訓練を実施し、非常災害時に備えます。

2022 年度 事業計画（訪問介護事業課）

事業所名

ホームヘルパーステーションアザレアン 係長(管理者) 尾澤美恵

定員（登録人数）

定員なし
（実利用者約40名）

主な事業

訪問介護事業	
総合事業（訪問型独自サービス）	
有償日常生活支援サービス事業	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・理念を基に、ご利用者様が楽しく、穏やかに在宅生活を続けていただけるよう支援します。
- ・行動規範を実践することで働きやすい職場作りをします。

事業所目標・利用率

- ・ケアマネや、地域包括支援センターとの関わりを密にし、新規ご利用者様の獲得を目指します。
- ・1日平均25件以上を目指します。

2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績	2021年度見込	2022年度目標
1日平均 25件	1日平均 27件	1日平均 21件	1日平均 20件	1日平均 25件

具体的行動計画

① 30周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・ご利用者様の尊厳を大切にし、ご利用者様らしく在宅で、安心して過ごしていただけるよう、職員のスキルアップを図ります。
- ・職員一人一人が互いを理解し、思いやりの心を持ち、働きやすい職場環境作りに取り組みます。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・ご利用者様が、職員の訪問を楽しみしていただけるよう、笑顔を大切にします。
- ・ご利用者様やご家族様が、穏やかに楽しい時間を過ごしていただけるよう、コミュニケーション技術を更に磨いていきます。

③ 地域の応援団を強化していきます

訪問先で出会う近隣住民、地域の皆様への気持ちの良い挨拶と笑顔、感謝の気持ちを忘れず、安心して頼れる事業所を目指します。

施設・設備整備計画

第1期(4～6月)	第2期(7～9月)	第3期(10～12月)	第4期(1～3月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画 （訪問介護事業課）

事業所名

24 時間対応型ホームヘルプステーションアザレアン 係長(管理者) 唐澤聖子

定員（登録人数）

定員なし
実利用者 6 名

主な事業

定期巡回随時対応型訪問介護看護	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・理念を基に、ご利用者様が楽しく、穏やかに在宅生活を続けていただけるよう支援します。
- ・行動規範を実践することで働きやすい職場作りをします。

事業所目標・利用率

- ・潜在的な在宅ご利用者様へ利用をおすすめする事で月平均の登録者 8 名以上を目指します。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
月平均 7 名	月平均 6 名	月平均 6 名	月平均 6 名	月平均 8 名

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・ご利用者様の尊厳を尊重し、ご自分らしく過ごしていただけるサービスを提供していくため、職員間の相互理解を深めることにより良い職場環境を作ります。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・訪問の時間にご利用者様にとって心安らげる時間となると共に、訪問する職員にとっても成長のための経験になるよう、皆で協力し取り組んでいきます。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスがある事で、それぞれの希望に応じて最後まで在宅生活を続けていただける、という事を地域の皆様に知っていただけるよう情報発信を続けて行きます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画（訪問介護事業課）

事業所名

居宅介護・重度訪問介護 係長(管理者) 尾澤美恵

定員（登録人数）

定員なし
登録者6名

主な事業

居宅介護・重度訪問介護	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・理念を基に、ご利用者様が楽しく、穏やかに在宅生活を続けていただけるよう支援します。
- ・行動規範を実践することで働きやすい職場作りをします。

事業所目標・利用率

・ご利用者様の状況により変動も多くあり安定しませんが、月平均25件以上を目指します。				
2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
		6 月～ 月平均 17 件	月平均 25 件	月平均 25 件

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・ご利用者様の尊厳を大切にご利用者様一人一人の個性を理解し、ご利用者様らしく在宅で安心して過ごしていただけるよう、職員のスキルアップを図ります。
- ・職員一人一人が互いを理解し、思いやりの心を持ち、働きやすい環境作りに取り組みます。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・ご利用者様が、職員の訪問を楽しみにしていただけるよう、笑顔を大切にします。
- ・ご利用者様やご家族様が、穏やかに楽しい時間を過ごしていただけるよう、コミュニケーション技術と、本来出来る力を奪わぬよう、出来る事出来ない事を見極める観察力、温かく見守る技術を磨いていきます。

③ 地域の応援団を強化していきます

訪問先で出会う近隣住民、地域の皆様への気持ちの良い挨拶と笑顔、感謝の気持ちを忘れず、安心して頼れる事業所を目指します。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画（訪問介護事業課）

事業所名

サービス付き高齢者向け住宅アザレアン
管理者 志賀早百合

定員（登録人数）

定員 15 名

主な事業

サービス付き高齢者向け住宅 15 室	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・法人の理念を基に、ご利用者様一人ひとりが生活の中に楽しみを見つけ、心豊かにお過ごしいただけるよう支援します。
- ・行動規範を実践し職場環境を整えます。

事業所目標・利用率

空室期間を無くすためスピード感を持って情報発信を行うことで利用率 100%を目標にします。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
101%	97%	95%	95%	100%

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・ご利用者様の尊厳を保ち、居心地の良い環境を整えていきます。
- ・職員が行動規範を実践することで互いを理解し思いやる心を持ち、働きやすい環境を整えて組織力の強化を図ります。
- ・法人内の他事業にも関心を寄せ、共に協力しながら組織の一体化を図ります。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・ご利用者様同士が交流できる場を提供し、「ご近所付き合い」を大切にします。
- ・ご利用者様と共に職員も楽しく働ける職場環境を作ります。
- ・ご利用者様とご家族様が一緒に過ごせる機会を提供していきます。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・ボランティアや地域行事に参加することで地域との交流を図ります。
- ・つくし自治会の回報や回覧板をご利用者様にも回覧し、地域の活動をお知らせします。
- ・非常災害時などは互いに助け合い、連携が取れるよう地域の避難訓練等に参加します。
- ・自治会行事に参加する事で地域住民にサ高住アザレアンを知っていただく機会を作ります。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
	定期清掃	床暖房点検	

○ 小規模多機能型事業課の経営計画（課長：土屋美穂）

大畑の家、新田の家の事業の運営経営を円滑に行います。

- ・地域に根差し、開かれた小規模多機能事業所を目指します。
- ・ご利用者様の暮らし、こだわりに合わせ、通い、訪問、宿泊を柔軟に組み合わせサービスを提供し、在宅生活を支えます。
- ・多職種との連携に努めます。
- ・ご利用者様の尊厳、人権をまもり、個々に合ったサービス提供を行います。
- ・職員の資質向上、専門性を高める研修計画を作成し、研修会への参加をします。
- ・職員間のコミュニケーションを図り、業務の効率化、適正な人員配置に努め、働きやすい環境を作ります。
- ・運営推進会議を実施し、地域の皆様との連携を行います。
- ・非常災害、感染症等の非常時対策の為、年2回の避難訓練、事業継続の体制の整備を行います。

2022 年度 事業計画（小規模多機能型事業課）

事業所名

大畑の家 係長(管理者)上野和哉

定員（登録人数）

25 名

主な事業

通所サービス	ケアマネジメントサービス
訪問サービス	よろず相談支援
宿泊サービス	地域連携支援

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・事業所会議の開始時に全員で理念やスローガンの読み合わせをして定着をはかります。

事業所目標・利用率

- ・ご利用者様の健康状態を維持し、入院を防ぎ、在宅生活を継続できるよう支援します。（適切なアセスメントやケア、多職種・地域との連携などによって実現します。）
- ・新規ご利用者様獲得のため、相談があった際は断らずに話を聞き、丁寧な対応をします。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
16 名	17 名	15 名	(18 名)	20 名

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・地域とつながりを持ち、よろず相談なども受け付けます。そうすることによって、「地域の中に相談ができる事業所がある」と地域の方々に認識して頂きます。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・コロナ禍においても、可能な範囲で季節行事を企画・実施していきます。
- ・アクティビティの機会を持ち、ご利用者様の生活に楽しさを提供します。
- ・「働きやすい職場」を目指し、ご利用者様の状態や職員の意見を確認しながら業務内容や環境を整えます。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・「災害時の避難所」として、非常時には事業所をオープンにしていきます。
- ・地域とつながりを持ち、よろず相談なども受け付けます。そうすることによって、「地域の中に相談ができる事業所がある」と地域の方々に認識して頂きます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画（小規模多機能型事業課）

事業所名

新田の家 係長(管理者)兼宗佐織

定員（登録人数）

25 名

主な事業

通いサービス	ケアマネージメント業務
訪問サービス	よろず相談支援
宿泊サービス	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・事業所会議の開催時に、全員で理念やスローガンの読み合わせをします

事業所目標・利用率

- ・感染対策を徹底し安心して利用できる事業所となります。
- ・新規ご利用者獲得の為、包括支援センターや医療連携室に、事業所の活動内容やパンフレットを配布しながら空き情報を発信します。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
16 名	14 名	16 名	(20 名)	22 名

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・感染対策を徹底しながら、職員同士理解を深め、やりがいのある職場を目指していきます。
- ・地域の方々へ、事業所や法人全体の情報を発信して興味を持って頂けるよう活動を行っていきます。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・季節に応じた変わり風呂や、行事を計画して楽しい時間を提供します。
- ・コロナ禍に負けず、感染対策を徹底しながら職員ご利用者が笑顔の絶えない事業所を目指します。
- ・職員の働きたい気持ちを大切に、一人ひとり思いやりを持ったチームを作ります。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・新田の風のボランティアの方々と定期的に情報交換を行い、地域の情報網を構築します。
- ・地域の方々が気軽に立ち寄り、相談できる居場所を提供します。
- ・他職種の方々と連携しながら、住みなれた地域での在宅生活を支援していきます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
・洗濯機の購入	・トイレの扉修繕		

○ 相談支援事業課の経営計画（課長：鶴見かよ子）

1.事業所の運営方針とサービス内容

要介護状態にある方に対し、適正な介護支援を提供し、サービスを受けることで心身の状態の維持、改善を目的とします。そして、ご利用者様およびご家族様に対して「在宅生活の視点」に立ち、公正中立な立場でニーズに対応した介護サービス等が利用できるようにします。

2.地域との連携と地域資源の把握

今まで築き上げてきた地域との関係を維持・継続し、今後につながる支援をします。また、既存の地域資源の整理・確認と既存の地域資源では対応できていない生活支援ニーズを特定し開発します。

3.事業所の安定した経営の維持

ご利用者様の新規登録や、再入院のリスク回避のため退院後の支援を強化していきます。そして、地域包括支援センターからの委託契約を継続します。

4. BCP（業務継続計画）の作成

感染症、自然災害に備える業務継続計画（BCP）の作成は令和3年度報酬改定に置いて、3年間の経過措置（令和6年度3月末まで）が設けられたうえで義務化されます。しかし、コロナ感染症が蔓延していることも考慮し早急に作成していきます。

2022 年度 事業計画（相談支援事業課）

事業所名

居宅介護支援センターアザレアン（管理者） 轟見かよ子 係長 加藤雅美

定員（登録人数）

249 名

主な事業

居宅サービス計画の作成	居宅サービス事業者との連絡・調整
アセスメントとモニタリング	給付管理
要介護認定申請に対する協力・援助	相談業務・包括支援からの委託業務

法人の運営理念、スローガンを定着するために

「人として 幸せに 安心して 生きる日々を 大切に」のアザレアンさなだの理念を前提に、より良い職場環境を築きます。そして、居宅支援事業所として、ご利用者様一人ひとりの自立に向けたケアプランを作成し、中立公正な立場で支援をしていきます。

事業所目標・利用率

「特定事業所加算Ⅱ」を継続するための一つひとつの要件を満たすことで居宅介護支援事業所のケアマネジメントの質の向上を目指します。また、感染症や災害が発生した場合であっても、ご利用者様に対して必要なサービスが安定的・継続的に提供されることが重要であるためBCP（業務継続計画）を作成します。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
2,369 件	1,991 件	1,830 件	(2,640 件)	2520 件

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

*ICT 化（音声入力等）を出来るところから進めていきます。
*オンラインでの担当者会議・研修・面会などの機会が増えていますので手軽にできる環境を整えていきます。
*若い介護支援専門員の補充を図り、新たな風を吹き込みます。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

*保険外サービスをケアプランに位置付けることが義務化されます。地域のサービスやボランティア団体等を通じて繋がることを出来るようにしていきます。
*自立支援・重度化防止のために VISIT や CHASE（LIFE）の活用をしていきます。

③ 地域の応援団を強化していきます

*医療介護関係に限らない地域の幅広いネットワークを創り、包括的なご利用者様の支援を行います。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画（相談支援事業課）

事業所名

各事業所所属の介護支援専門員 係長 小池順子

定員（登録人数）

名

主な事業

各事業所のケアマネとの事例検討	各事業所のケアマネとの勉強会
ご利用者様にあったサービスの意見交換	

法人の運営理念、スローガンを定着するために

「人として 幸せに 安心して 生きる日々を 大切に」のアザレアンさなの理念を前提に、より良い職場環境を築きます。そして、居宅支援事業所として、ご利用者様一人ひとりの自立に向けたケアプランを作成し、中立公正な立場で支援をしていきます。

事業所目標・利用率

事業所の一員として自身のケアマネジメントについて、ご利用者様に根拠を持って説明できるようにします。そして、継続的なご利用者様の支援を行うために自己研鑽を図り、事業所全体の資質向上を構築します。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標

具体的行動計画

- ① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

*お互いの事業所のケアプランを学習します。

- ② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

*在宅から施設等に移られたときのご利用者様の意向を共有し継続できるように支援します。

- ③ 地域の応援団を強化していきます

*法人内の事業所や他の事業所と支え合い、“点”ではなく“面”でケアマネジメント力を高め、地域の事業者全体の底上げを図ります。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

○ 医療連携部の経営計画（部長・課長：若林幸子）

地域で在宅生活を送る療養者様や施設で生活する利用者様を専門的な角度から支えるため、地域事業部を経営いたします。（訪問看護ステーション真田、各事業所に所属する看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士などの専門職）

1.地域包括ケアシステムの構築と推進

- ・2040年には、高齢者人口がピークを迎え、医療、介護を必要とする方の増加、現役世代の減少が見込まれています。

厚労省からは、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進することが課題となっています。

医療連携部は、専門職の知識をいかしアザレアンさなだにとどまることなく、地域に飛び出し、地域全体を視野に入れて、当法人の理念である「人として 幸せに 安心して 生きる日々を 大切に」をもとに、住み慣れた地域で人生最期まで暮らすことができる地域づくりに貢献します。

- ・多職種とのネットワークを構築し、自立支援、重度化防止に向けた取り組みに努力します。
- ・医療、看護、介護との連携、協働に努めます。

2.療養者の重度化、多様化、複雑化に対する強化

各種専門性をいかし、多機関、多職種と協働しチームの一員としてその役割を發揮し、地域のニーズに応えられるよう体制を整備し努力します。また、各専門職の強みを生かしたサービスの提供と看取りの推進に努めます。

3.感染防止対策や災害対策への強化

常に危機的意識を持ち、どんな場合でも安全にかつ継続的に提供できるよう体制を強化します。

4.職員教育及び育成

多職種と協働して質の高いケアを提供できるよう、多職種とともに学び、考える場を提供します。

2022 年度 事業計画 (医療事業課)

事業所名

訪問看護ステーション真田 係長(管理者) 横山 薫

定員 (登録人数)

名

主な事業

訪問看護業務	精神科訪問看護業務
定期巡回訪問看護業務	グループホーム医療連携
ショートステイ訪問看護	定期巡回訪問介護看護業務
緊急時訪問看護業務	医療機関との連携業務

法人の運営理念、スローガンを定着するために

職員ひとりひとりが、法人の理念を共有し、住み慣れた地域で暮らし続けたいという想いを大切にし寄り添う看護サービスの提供に努めます。

事業所目標・利用率

訪問件数年間 3200 件を目標とし、看取りケアを中心に医療保険での訪問や精神科訪問看護などの多様化にも対応できるような体制を図り、収益の安定化に努めます。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標
3,006 件	2,687 件	2,895 件	(3,000 件)	3200 件

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

今まで築いてきたものを基盤に、新たな風をいれ、未来に向かい、職員が心をつなげるとともに支えあえる人間関係を構築していきます。また、それぞれが成長できる環境であるよう努力していきます。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・日々、ご利用者様やご家族様が在宅で笑顔でいられるように寄り添います。
- ・理解しあえる人づくりを目指します。
- ・常に看護に対する向上心や看護師としての誇りを持ち信頼しあえる仲間づくりと明るい職場づくりに努めます。
- ・ご利用者様やご家族様との思い出の写真を撮り提供していきます。
- ・イベントデーを設け、笑顔のある生活を支援していきます。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・365 日 24 時間体制をいかし、強みにかえ地域を応援していきます。
- ・地域に出て、訪問看護というサービスの発信をしていきます。
- ・フェイスブック、パンフレットの作成を行い地域の皆様に知っていただく機会を作ります。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

2022 年度 事業計画 （医療事業課）

事業所名

各事業所所属の看護職員・PT・OT・DH・管理栄養士 係長 佐藤幸永

定員（登録人数）

名

主な事業

専門性をいかした勉強会の開催	職員の育成・教育
地域への専門職としての発信	事例発表会

法人の運営理念、スローガンを定着するために

地域の方々が笑顔で暮らし続けるために、予防的観点や重度化防止、自立支援を目指し専門職としての知識や技術を地域に発信していきます。

事業所目標・利用率

地域で専門職とのチームづくりを行い、地域に根ざします。
職員教育と育成を行います。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・「心は一つにともに支えあう未来へ」より、各職種が支えあい協力していきます。
- ・お互いに認め合い、尊重することに努力します。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・ご利用者様にはいつも笑顔で接します。
- ・常に感謝の気持ちで接するよう努力します。

③ 地域の応援団を強化していきます

安心して暮らせる町づくりの第一歩として、専門職として地域へ出ていき、まちのチームの一員として連携に努めていきます。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)

○ ナーサリーさなだ(企業所内保育所)の経営計画 (園長： 小林 彰)

ナーサリーさなだは、基本的に恵仁福祉協会とかりがね福祉会が協同して経営、運営しています。産休、育児休業明けの職員のお子さんを3歳まで預かっています。職員が勤務日以外は預けられない等の規定がありますが、保育料については法人からの補助や国からの助成もあり、比較的安い保育料でお子さんを預けることができます。

ナーサリーさなだは、

- ①職員がお子さんを預け、安心してそれぞれの職場で働き続けられること、
- ②お子さんが安全に、健やかに育つことを最も大切にして保育を提供しています。

また、少人数ということで家庭的な雰囲気の中でお子さん一人ひとりに目が行き届き、丁寧な保育が可能になっています。隣接して高齢者総合施設アザレアンさなだがあるということで、高齢の方々との交流もできます。(しばらくの間は、新型コロナウイルス感染予防でできない状況です)。周囲には運動公園や真田図書館等があり自然環境や社会教育環境にも恵まれています。このような環境の中で、次に掲げる保育理念、保育方針、保育目標にそって保育をしていきます。

◎ 保育理念

子ども（お子さん）一人ひとりが安心して伸び伸びと活動し、健やかに成長できる保育

◎ 保育方針

家庭的な雰囲気のもとで一人ひとりの子ども（お子さん）の豊かな人間性を育成する

◎ 保育目標

- ・丈夫な身体と豊かな心を育てる
- ・思いやるところのある子ども（お子さん）
- ・意欲的に遊べる子ども（お子さん）

2022 年度 事業計画（企業所内保育所）

事業所名

ナーサリーさなだ 主任 大森真奈美

定員（登録人数）

16 名

主な事業

・企業内保育所の運営

・関係機関との連絡調整と申請等

法人の運営理念、スローガンを定着するために

- ・月 1 回の保育士職員会による改善、提案をすすめます。
- ・月 1 回の「おたより」による保護者への連絡をします。
- ・1 か月の保育指導案についての話し合いをします。

事業所目標・利用率

- ・企業内保育所の存在の PR をすすめます。
- ・保護者への情報伝達、育児に関する情報発信をします。

2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度見込	2022 年度目標

具体的行動計画

① 30 周年記念事業を通じて新たなカタチを創造します

- ・ご利用者様との交流、行事への参加をすすめます。
- ・保護者、お子さんたちが安心して過ごせるナーサリーさなだを目指します。

② ワクワク・ドキドキの活動を提供していきます

- ・遠足、各月ごとの行事、イベントを計画します。
- ・手作りおやつを提供をします。
- ・月ごとの製作をします。

③ 地域の応援団を強化していきます

- ・挨拶を元気にします。
- ・イベントに参加します。
- ・フェイスブックを活用し、ナーサリーさなだの様子を配信します。

施設・設備整備計画

第 1 期(4～6 月)	第 2 期(7～9 月)	第 3 期(10～12 月)	第 4 期(1～3 月)
物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)	物件名(購入・工事)
丸太の工事	タイヤの工事		

Ⅲ 職員研修会・職員全体会議・4 法人合同研修

職員研修会・職員全体会議について

職員研修会

- ・毎月録画視聴形式で研修を行いレポートを提出していただきます。
- ・その他専門職等のオンライン研修にも積極的に参加していただきます。

職員全体会議

- ・年2回 4月の事業計画、11月の事業所復命報告についてはハイブリッド形式で行います。

月	内 容	担 当
4 月	職員全体会議 令和4年度事業計画発表 ZOOM・ハイブリッド式で	理事長 常務理事 部長 課長
5 月	認知症のケア	高齢者ケア研究会
6 月	令和3年度事業報告会 ZOOM・ハイブリッド式で事業所ごとに	理事長 常務理事 部長 課長
7 月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止の取り組みについて	身体拘束適正化委員会
8 月	アザレアンさなだの防災対策について	安全委員会（防災担当）
9 月	法令順守・倫理について	倫理・人権委員会
10 月	感染症予防 食品衛生について	感染症対策委員会
11 月	職員全体会議 業所活動報告	総合事業について ()
12 月	職場のハラスメント対策について (メンタルヘルス)	衛生委員会
1 月	リスクマネジメント 護事故防止について	リスクマネジメント委員会
2 月	事故防止・安全運転について	安全委員会（事故担当）
3 月	個人情報・プライバシー保護について	倫理・人権委員会

4 法人合同研修会

- ・新人研修については各法人ごとに行います。
- ・専門職ごとにZOOMで懇談会を開催します。

事務職の懇談会（担当：みまき福祉会）	ユニットリーダー懇談会（担当：大樹会）
小規模・GH懇談会（担当：依田窪福祉会）	訪問系職員懇談会（担当：恵仁福祉協会）
- ・4 法人交流ソフトボール大会について
8月までの状況により判断します。 飲食禁（みまき福祉会担当）

○ 10年後のアザレアンを考える会の経営計画（委員長：田中広一）

- ・令和3年度の10年後のアザレアンさなだを考える会では、「魅力のあるアザレアンさなだ」にしていくために、『学ぶ、話し合う、つながる、うごく』をテーマに活動をしてきました。具体的な活動として「勉強会の開催」、「新人職員の育成」に力を入れて取り組みました。

「勉強会の開催」

- ①毎月1回会議の中で開催。委員がそれぞれ所属している事業所について調べ、資料を作成して他の委員に講義を行いました。
- ②3カ月に1回、「泉田先生の勉強会」を開催。自分たちが関わっているケースをもとに、認知症ケアに関する勉強をしました。

「新人職員の育成」

- ①新人職員の研修を担当しました。新人基礎研修、フォローアップ研修などを行いました。現在もちろからアプローチをして面接などを行っています。
- ②実際の現場で指導を行うエルダーに対して、毎月1回「エルダーミーティング」を開催しました。エルダー同士で話し合う機会を設け、悩みや課題を共有する場を持ちました。

上記の活動は現在も継続して行われています。これらの活動は、令和4年度も引き続き行っていく予定です。

- ・10年後のアザレアンさなだを考える会が初年度から取り組んでいる活動が「6つの実践」です。この「6つの実践」は働きやすい職場を目指して作られたものです。全体会議や職員研修会を通じて職員の皆さんに周知をしてきました。また、自分たちも率先して取り組みました。これからも日々意識して取り組み、働きやすい職場になるよう努めていきます。
- ・令和4年度に力を入れて取り組んでいく活動については以下の通りです。

「勉強会の継続」

事業所に関する勉強会、泉田先生の勉強会などに参加し、自分自身の知識や技術を深めて、現場で生かしていきます。

「職員の育成」

新人基礎研修、フォローアップ研修については継続していきます。
2年目以降の若手職員向けの研修の開催も計画しています。
エルダーミーティングも引き続き行っていきます。
研修を担当する私たち自身も、適切な研修が行えるようにスキルアップを図っていきます。

「働きやすい職場にむけて」

会議でみんなと話し合うことを続けていきます。
新しい委員を迎え、新しい風を入れて会の発展を目指します。
コロナ禍ではありますが、委員同士で交流を深められる機会を設けていきたいと考えます。
6つの実践「笑顔・挨拶・清潔・身だしなみ・感謝・理解」の法人全体への周知と実践をしていきます。

○ 法人創立 30 周年記念事業の経営計画（委員長：永井悦子）

法人設立 30 周年記念事業の運営を行います。

『目的』：心をついに共に支え合う未来へ

『目標』：職員同士の相互理解を深めよう

地域の一員として、安心して暮らせる街（まち）づくりに貢献しよう
多様性を認め合い、共に笑顔で繋がろう

- ・未来が見える事業の計画をし、実行します。
- ・30 周年の今年度だけでなく、今後も続く活動をします。
- ・30 周年記念事業として式典、イベント等計画し、実行します。
- ・記念事業を機に、法人の一体化を目指します。
- ・ワクワクする楽しいと思える活動を計画し、実行します。
- ・ご利用者に、地域に、職員に向け様々な活動を計画し、実行します。
- ・各目標でチームを作り活動します。

～職員同士の相互理解を深めよう～

- ・職員が知りたい各事業所の情報を集め、情報発信します。
- ・職員が他事業所の相互を理解するための研修を計画し、実行します。

～地域の一員として、安心して暮らせる街（まち）づくりに貢献しよう～

- ・各事業所の地域活動を把握し、年間を通じて活動に参加します。
- ・既存の活動を通じて、事業所の取組を説明します。
- ・自ら地域へ出掛けていく活動の一つとしてパンフレットの作成をします。

～多様性を認め合い、共に笑顔で繋がろう～

- ・笑顔の写真を集めます。
- ・笑顔の写真で作品を作ります。
- ・写真を利用し、記念になる品物を作成します。

法人創立 30 周年記念式典の実施を計画します。

開催日時：令和 4 年 12 月 18 日
開催場所：上田市真田中央公民館大ホール
式典内容：30 周年記念事業の紹介
功労者等表彰
記念講演会 等

○ 「えぼし会」の計画（代表世話人：柳沢邦男・事務局：永井琢郎）

「えぼし会」の歴史

平成5年4月にアザレアンさなだが開設され、それから1年後の平成6年の6月に入居者やデイサービスのご利用者様のご家族様で「家族会」が発足しました。会の名前もこの時に「アザレアンえぼし会」に決まりました。ちなみに私はこの時から在籍させて頂き現在に至っております。

「えぼし会」の発足からの活動内容

創立された当初は、会員相互の親睦を図るために「施設祭」・「大忘年会」などの行事があり、デイサービスの座敷を舞台に見立てての「水戸黄門」や「白虎隊」の劇をしたり、カラオケのど自慢大会を開催しました。

施設祭と8月の真田まつりで焼き鳥を焼いていましたがとても好評でした。当時はまだアゼリアが無く本部玄関先で焼き、真田まつりではグラウンドまで売りに行きました。

職員さんの手助けになるようにと窓ふき・車いす掃除・繕い物などのお手伝いも行いました。現在も年に2回の施設の大掃除の折には参加しております。

発足当初はまだ畑作業はやっておりませんでした。設立してから5年ほど経った頃に私が代表世話人をお受けする前の代表の方の頃から、少しずつ畑作業が始まり現在に至っております。ジャガイモ、大根、長ネギなどを作っています。

お元気なご利用者様と一緒に畑でとれた野沢菜や大根を漬物にして食卓をにぎやかにしました。

アザレアンの広報誌（そのころは全戸配布でした）に、えぼし会の会報を挟み込み、えぼし会の会員を募った時期もありました。多くの町民（そのころは真田町でした）の方が力を貸してくださいました。「そちらに伺えないがせめて寄付だけでも」とお手紙を頂くこともありました。家族会からボランティア活動に代わってきた時期です。

昨今の主な活動の中では、入社された新人職員には2年間は「えぼし会」活動に参加していただいています。事業活動を通じて、アザレアンさなだの歴史や家族や地域の思いなどをお伝えしていきたくと考えています。また、広報誌「真田生き生きふるさと通信」に「えぼし会」特集を設けていただき、活動の紹介を通じて関心を持っていただけるよう広報活動に努めています。今後は会員数の拡大、寄付金活動の充実などの具体的目標をもって取り組んでいきたいと思っております。

令和4年度 えぼし会 事業計画(案)

実施予定日	内容	備考(該当者)
4月上旬	令和3年度会計監査	監査員・会計事務局・会長
4月中旬	定期総会(令和3年度事業・会計報告) (4年度事業・予算計画案)	理事長・えぼし会会員・世話人
4月下旬	畑作業(種芋10kg・葱12kg)植え付け	えぼし会
5月・6月	畑作業(草刈り・葱土寄せ・鶏糞まき)	えぼし会
5月(中旬～下旬)	カラオケを楽しむ会準備委員会	えぼし会・実行委員
6月中旬	カラオケを楽しむ会前日準備	えぼし会・実行委員
6月中旬	カラオケを楽しむ会開催・反省会	えぼし会・実行委員
7月中旬	夏祭り準備委員会	えぼし会・実行委員
7月下旬	畑作業(馬鈴薯収穫)	えぼし会
	収穫物配布(各事業所)	えぼし会・有志
	アザレアン大掃除	えぼし会・有志
8月上旬	アザレアン夏祭り(さなだ祭り)	えぼし会・実行委員
8月中旬	畑作業(大根種まき準備)	えぼし会
	畑作業(大根種まき)	えぼし会
9月・10月	畑作業(草刈り・葱土寄せ・鶏糞まき)	えぼし会
11月下旬	畑作業(大根・葱収穫)	えぼし会
	収穫物配布(各事業所)	えぼし会